

## 2. 生活環境について

### Q3 あなたは自宅通学ですか [択一]

「自宅通学」と回答した学生は10.8%、「自宅外通学」と回答した学生は88.1%であった。「自宅外通学」の学生が圧倒的に多い。男子学生、女子学生ともに「自宅外通学」である傾向は強く、男女間における相違はほとんどみられない。

調査実施年度のいずれにおいても「自宅外通学」と回答した学生が圧倒的に多く、およそ9割となっている。一方で「自宅通学」は1割程度であり、年度による相違はほとんどみられない。

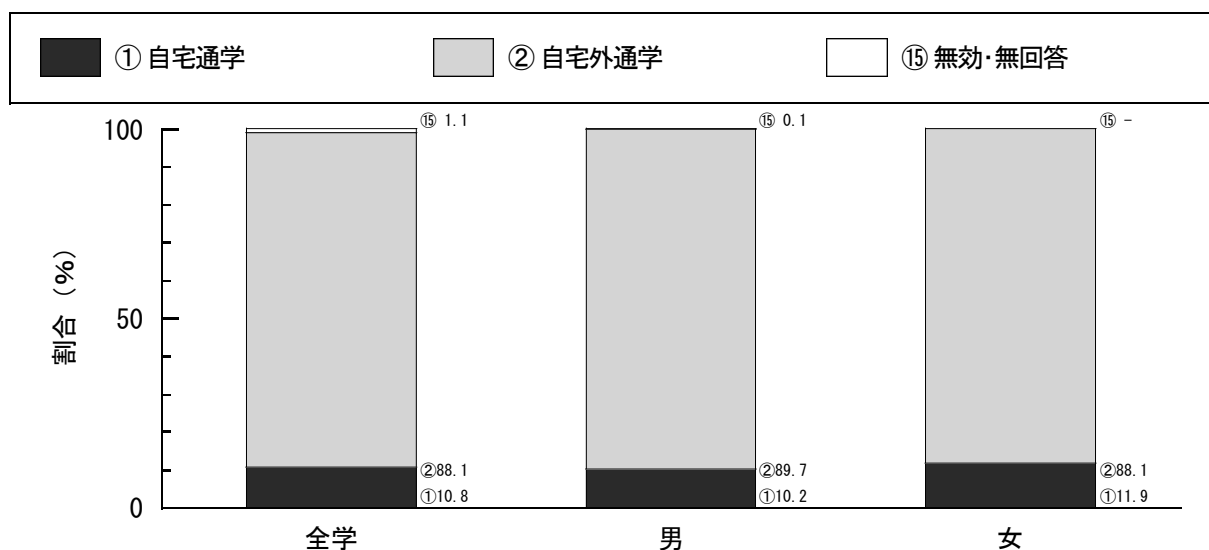


図2-1-a Q3の集計結果(全学・男・女別)

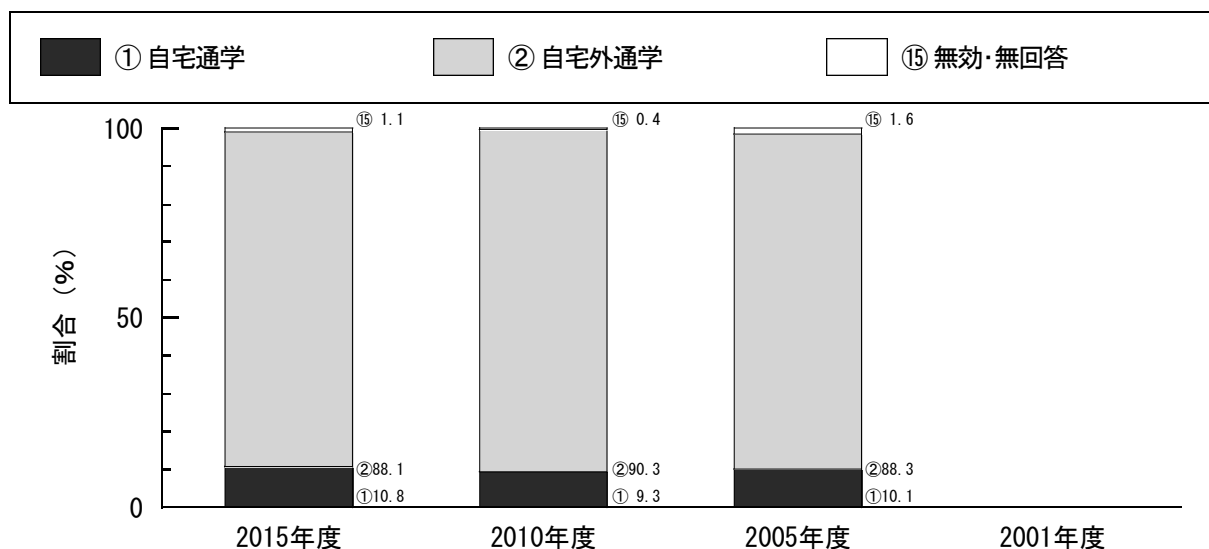


図2-1-b Q3の集計結果(全学に関する調査年度別)

Q3-SQ1 現住所に住民票を登録していますか [択一]

「自宅外通学者」の現住所への住民票登録状況は、18.4%が「している」、81.3%が「していない」であった。住民票の変更はあまりなされない傾向にあるようである。男子学生および女子学生の差異はほとんどみられない。

2001年度の現住所への住民登録状況は、46.8%が「している」、53.2%が「していない」であった。しかし「していない」の回答は、2005年度 66.8%、2010年度 74.9%、2015年度 81.3%と増加傾向にある。すなわち住民票の変更は年々なされない傾向が進んでいるということである。

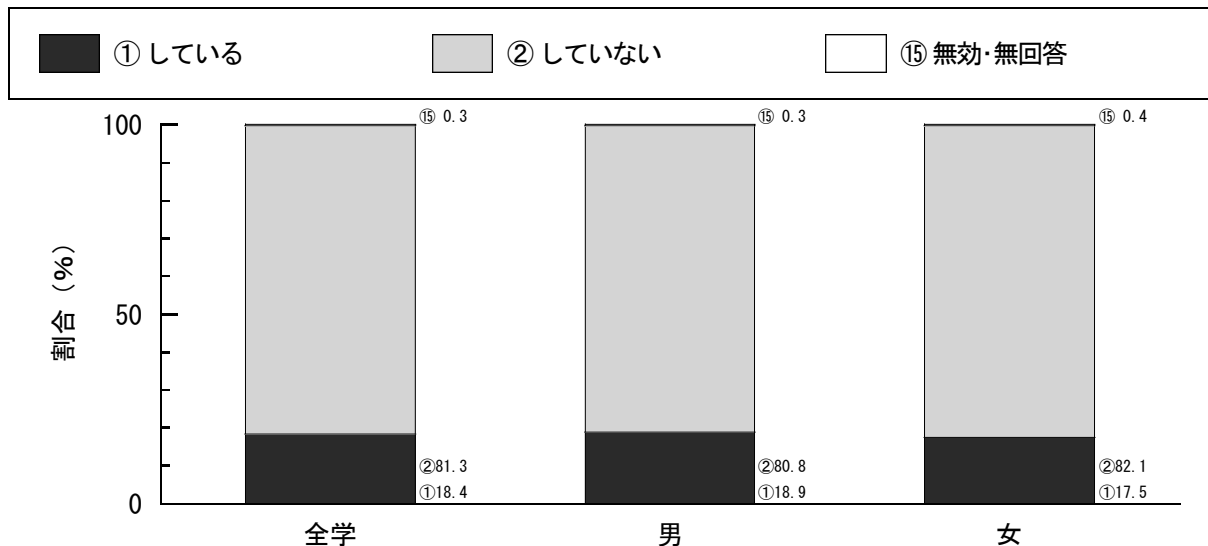


図 2-2-a Q3-SQ1 の集計結果 (全学・男・女別)

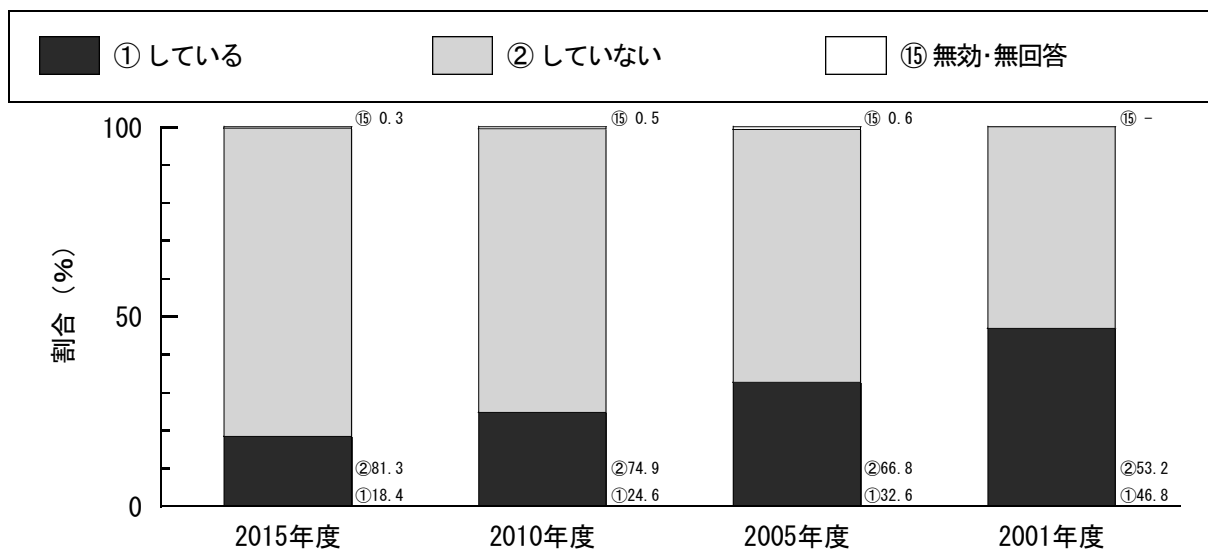


図 2-2-b Q3-SQ1 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q3-SQ2 どのような住居に住んでいますか [択一]

「自宅外通学者」の住居は、92.4%が「アパート・マンション等」で、「学生寮」は 6.3%であった。男女による違いもほとんどみられない。

調査年度による違いもほとんど見られず、「学生寮」がおおよそ5%で、9割以上が「アパート・マンション等」に住んでいる。

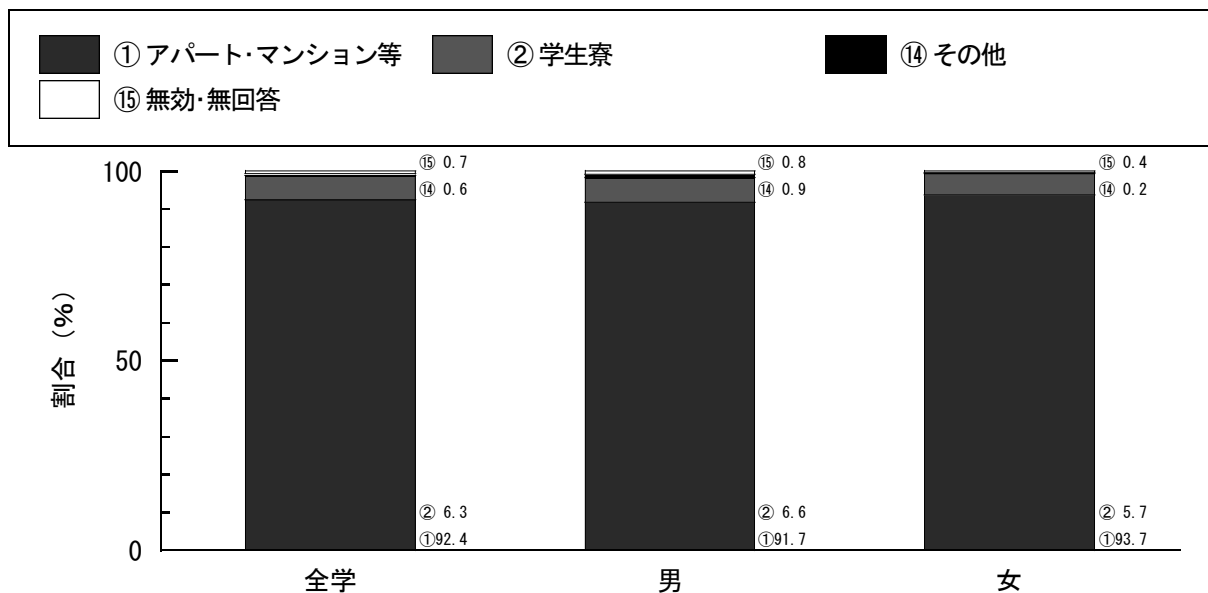


図 2-3-a Q3-SQ2 の集計結果 (全学・男・女別)

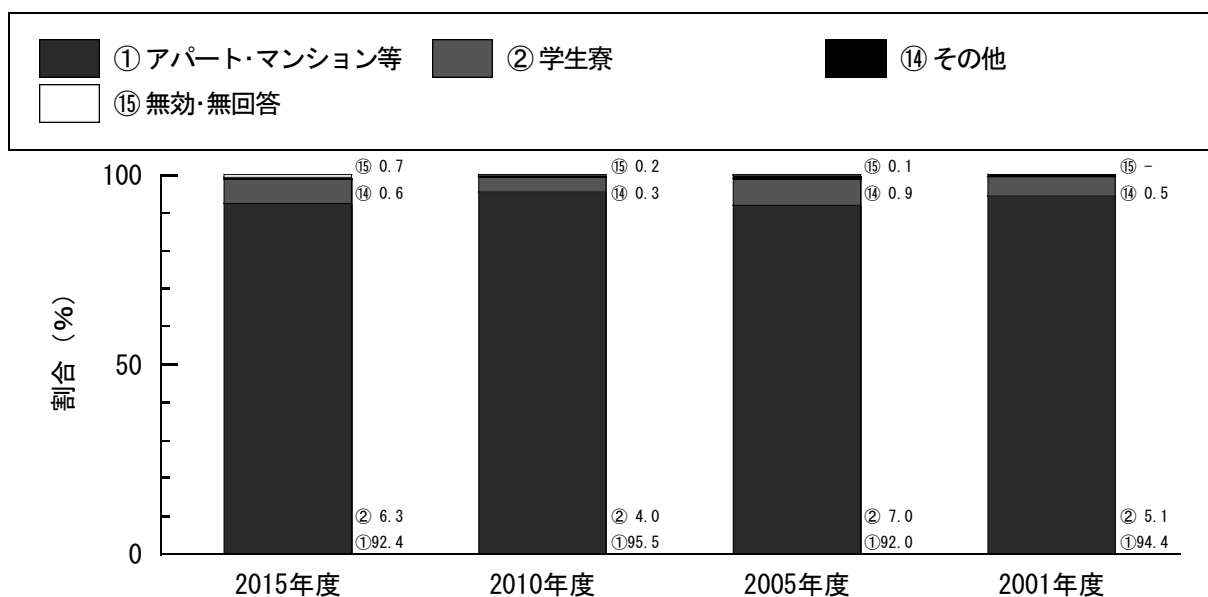


図 2-3-b Q3-SQ2 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q3-SQ3 専用設備にはどのようなものがありますか（共用は除く）〔複数選択可〕

「台所・炊事設備」、「トイレ」、「浴室」「エアコン」はいずれも 97%を上回っていることから、これらは「自宅外通学者」の住居において必ず求められる設備であると言えるだろう。また「ベランダ（バルコニー）」、「ガス」「押し入れ（ウォークインクローゼット）」も 8 割を上回った。「室外洗濯機置き場」は男子学生 25.4%に対して女子学生は 19.8%と 5%以上の違いがあった。「シャンプードレッサー」、「ウォシュレット」、「テレビ付きモニターホン」は男女間に 10%以上の違いがあり、女子学生のほうが求める傾向が強いようである。

いずれの年度においても 2015 年度における上位 4 つの項目は 9 割程度かそれ以上の値を示していた。「ケーブルテレビ」に関しては 2005 年度 65.5%、2010 年度 58.4%、2015 年度 45.3%と減少傾向にあり、テレビ離れが進んでいることがうかがえる。一方で「ウォシュレット」、「テレビ付きモニターホン」は 2010 年度と比べると 10%以上の差異があり、近年の人気の設備となりつつあると言えそうである。

表 2-1-a Q3-SQ3 の集計結果（全学・男・女別）

	全学	男	女
台所・炊事設備	97.5	96.7	98.6
トイレ	98.3	98.1	98.6
浴室	97.4	97.1	98.2
ベランダ(バルコニー)	80.0	74.6	87.0
駐車場	71.4	68.9	75.0
駐輪場	74.7	71.4	79.0
ケーブルテレビ	45.3	44.1	47.1
エアコン	97.2	96.7	98.0
ガス	82.7	81.6	84.1
下駄箱	67.7	64.2	72.4
床下収納	6.6	8.4	4.1
物置	34.8	36.6	32.3
押し入れ(ウォークインクローゼット)	81.0	78.1	85.4
浴室乾燥機	20.3	18.7	22.6
室外洗濯機置き場	23.1	25.4	19.8
シャンプードレッサー	21.3	12.7	32.8
ウォシュレット	42.2	36.0	51.0
テレビ付きモニターホン	34.8	30.3	41.0
ウォームレット	9.8	7.1	13.4
カードキー	5.0	5.3	4.5

表 2-1-b Q3-SQ3 の集計結果（全学に関する調査年度別）

	2015 年度	2010 年度	2005 年度	2001 年度
台所・炊事設備	97.5	96.8	99.3	97.5
トイレ	98.3	97.0	96.7	91.1
浴室	97.4	96.2	95.9	88.8
ベランダ(バルコニー)	80.0	79.0	78.6	-
駐車場	71.4	68.9	-	71.1
駐輪場	74.7	71.3	-	-
ケーブルテレビ	45.3	58.4	65.5	-
エアコン	97.2	95.7	-	86.3
ガス	82.7	84.9	-	-
下駄箱	67.7	61.9	-	-
床下収納	6.6	6.4	-	-
物置	34.8	26.2	-	-
押し入れ(ウォークインクローゼット)	81.0	86.2	-	-
浴室乾燥機	20.3	17.5	-	-
室外洗濯機置き場	23.1	21.5	-	-
シャンプードレッサー	21.3	18.2	-	-
ウォシュレット	42.2	24.1	-	-
テレビ付きモニターホン	34.8	22.8	-	-
ウォームレット	9.8	7.9	-	-
カードキー	5.0	5.5	-	-

Q3-SQ4 間取りはどれですか [択一]

「1K」と回答した学生が最も多く72.1%であった。DK（ダイニングキッチン）とは4.5畳から8畳までを示しており、基本的には居住スペースとして利用しない。よって「1R」、「1K」、「1DK」は1部屋であり、学生のほとんどである91.4%は1部屋で生活している。男女間における間取りの違いはほとんどみられない。

「1R」、「1K」、「1DK」の合計値に関しては、2005年度87.9%、2010年度91.5%、2015年度91.4%とおおよそ9割で変動はみられない。一方で「1DK」に関しては2005年度25.0%、2010年度15.9%、2015年度10.4%と減少傾向にある。「1DK」よりも「1K」を選択する割合が高くなっており、世帯の経済事情がこの結果の要因と考えられる。

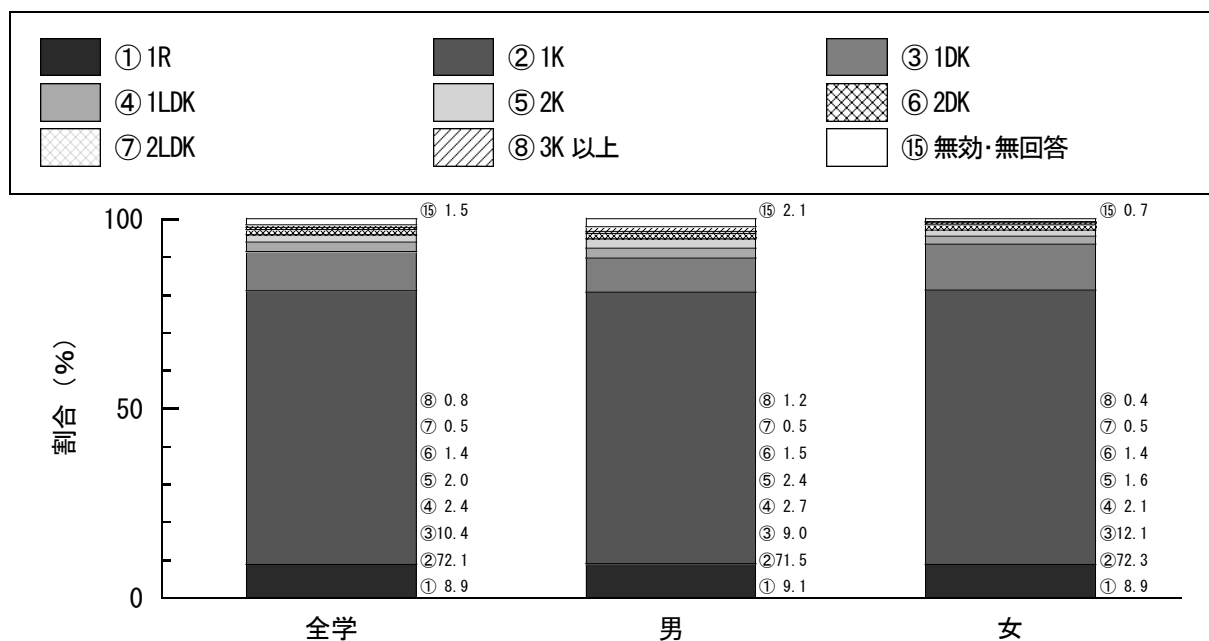


図2-4-a Q3-SQ4の集計結果 (全学・男・女別)

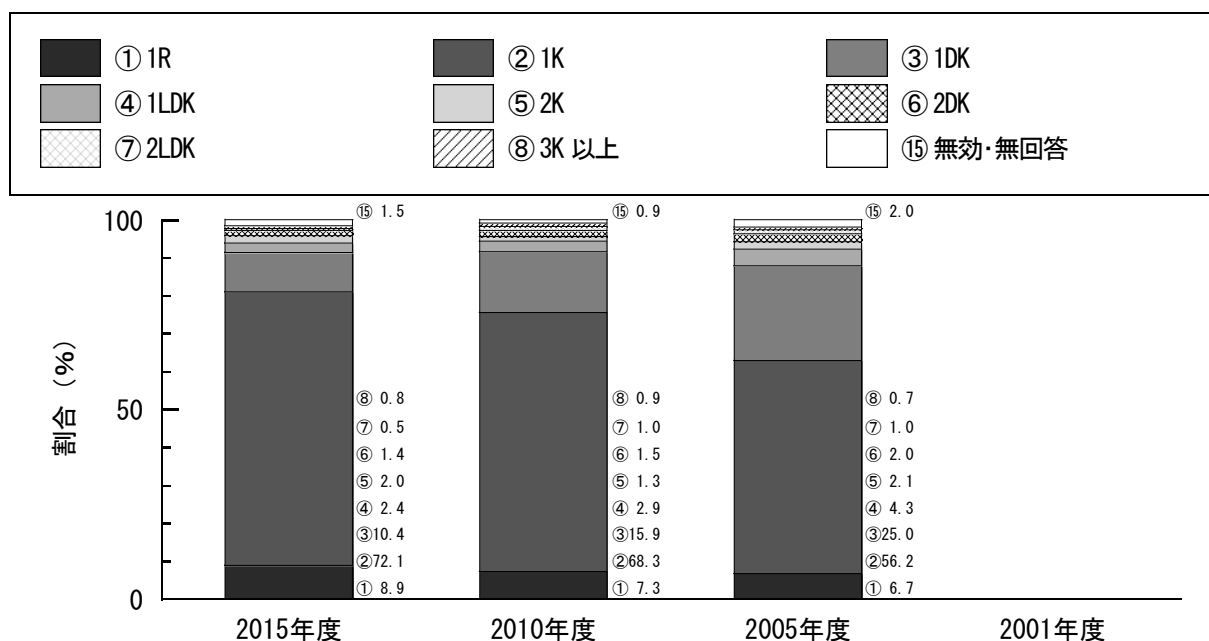


図2-4-b Q3-SQ4の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q3-SQ5 家賃はいくらですか（共益費、駐車場代も含む）〔択一〕

最も高い数値を示したのは「3万円台」の34.2%、次いで「4万円台」の29.2%、そして「2万円台」の22.0%という順であった。これらの合計値は85.4%でありそのほとんどを占めている。男子学生、女子学生ともに上位3つの項目に変化はない。しかし女子学生に関して最も高いのは「4万円台」で35.2%であった。

「2万円台」、「3万円台」、「4万円台」の合計値は、2005年度87.4%、2010年度85.1%、2015年度85.4%と大きな変化はみられない。一方で「4万円台」は、2005年度34.2%、2010年度33.6%、2015年度29.2%と減少傾向にあるようである。また「2万円台」は、2005年度10.8%、2010年度17.5%、2015年度22.0%と明らかに増加傾向にある。このことから少しでも安い家賃の住居を探す傾向があると思われる。

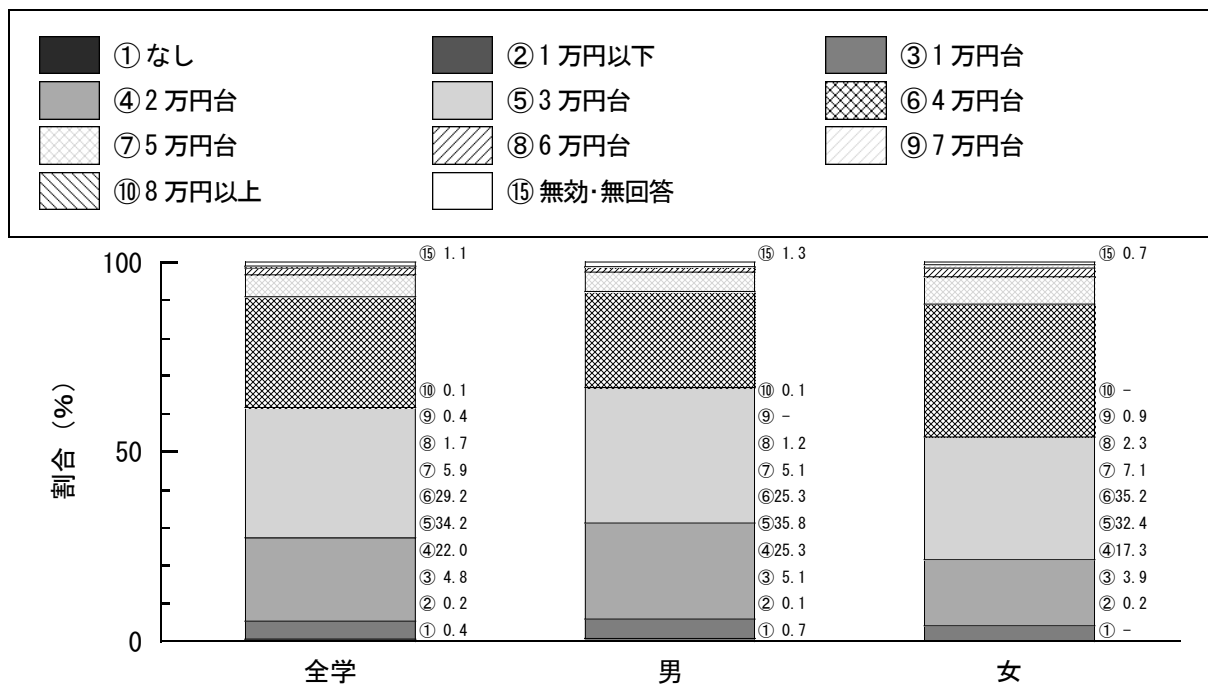


図2-5-a Q3-SQ5の集計結果 (全学・男・女別)

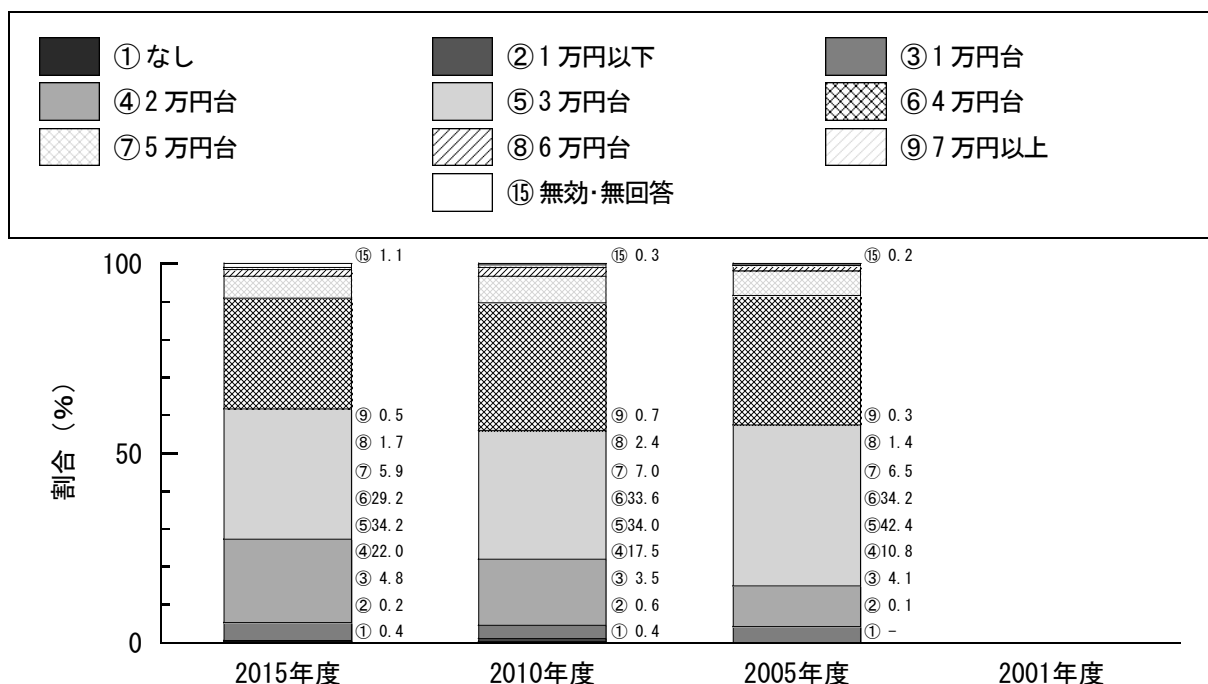


図2-5-b Q3-SQ5の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q4 あなたは右に掲げるもののうち、個人用として所有しているもの、

また個人で契約してサービスを受けているものとして何がありますか [複数選択可]

「携帯電話」が最も多く 93.3%であった。次いで「自転車」が 83.8%であった。また「パソコン」の合計は 92.8%であり、この3つに関してはほとんどの学生が所有しているものと思ってよいだろう。この設問において「エアコン」は 38.4%という結果であったが、Q3 における「自宅外通学」が 88.1%、Q3-SQ3 における「エアコン」が 97.2%という結果から、少なくとも 85.5%が該当するはずである。部屋に付属の「エアコン」を「個人で契約しているサービス」と捉えなかった学生が多かったのであろう。「テレビ」、「冷蔵庫」、「洗濯機」、「掃除機」、「電子レンジ」も 7割を上回っており、これらもほとんどの学生が所有しているものと思ってよいだろう。上記8つは男女問わず高い傾向にあるが、そのうち「自転車」、「電子レンジ」、「洗濯機」は女子学生のほうが男子学生より所有率が高いと思われる。また、「ゲーム機」、「自動車」「二輪車(原付・バイク)」に関しては男子学生のほうが、「デジタルカメラ」、「ストーブ・ファンヒーター」、「DVD・Blu-rayDisc プレーヤー」に関しては女子学生のほうがそれぞれ所有率の高い傾向にある。

表 2-2-a Q4 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
電話機	2.1	2.8	1.1
携帯電話	93.3	94.1	94.7
ファクシミリ	0.7	1.0	0.3
テレビ	70.7	70.6	72.5
冷蔵庫	75.8	75.4	77.9
洗濯機	73.6	72.1	77.2
掃除機	70.3	70.5	71.7
電子レンジ	75.6	74.1	79.4
エアコン	38.4	38.4	38.6
ストーブ・ファンヒーター	16.6	13.8	20.7
CD・MP3 プレーヤー	32.5	32.4	33.6
DVD・Blu-rayDisc プレーヤー	31.5	29.0	35.5
デジタルカメラ	22.9	15.8	33.1
ビデオカメラ	1.7	1.9	1.6
ゲーム機	43.5	56.0	28.3
パソコン(インターネットは使していないもの)	12.9	12.8	13.0
パソコン(インターネットは使しているもの)	79.9	79.1	82.7
タブレット	11.5	13.1	9.7
自動車	19.9	23.6	15.7
二輪車(原付・バイク)	6.8	9.7	3.0
自転車	83.8	80.3	90.7
クレジットカード	22.5	21.5	24.2
新聞(Web 購読含む)	7.7	8.3	6.9

2015年度において高い傾向にあった「携帯電話」、「自転車」はいずれの年度においても高い。「パソコン」に関しては2001年度51.0%であったが、以降は9割を上回っている。「テレビ」、「冷蔵庫」、「洗濯機」、「掃除機」、「電子レンジ」も同様に高く、「エアコン」に対しても2010年度に対して上記と同様の計算結果をもとにいずれの年度も7割以上であることがわかる。「CD・MP3プレーヤー」は2001年度86.4%であったものが、2015年度には32.5%と50%以上下がっている。また「電話機」に対しても2001年度から2015年度で50%近く下がっている。これらは「携帯電話」の普及と機能拡充の結果に他ならない。2010年度から2015年度にかけて大きく下がっている「デジタルカメラ」や「ゲーム機」は、スマートフォンの登場と普及が関係していると考えて良いだろう。「ファクシミリ」に関しては、携帯電話の普及およびスマートフォンをはじめとするネットワーク環境変化（電子メール環境の変化）により、2001年度15.3%であったのが2015年度には0.7%と大きく下がっている。「自動車」に関して2001年度34.0%であったのが、2015年度には19.9%と下がっており、大学生の「自動車離れ」が進んでいるようである。また「新聞（Web購読含む）」も2005年度19.9%であったのが2015年度7.7%と下がっており、「新聞離れ」も進んでいるようである。

表2-2-b Q4の集計結果（全学に関する調査年度別）

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
電話機	2.1	3.5	7.7	50.3
携帯電話	93.3	95.2	95.3	92.6
ファクシミリ	0.7	1.4	4.2	15.3
テレビ	70.7	77.5	85.7	92.7
冷蔵庫	75.8	81.2	84.0	89.0
洗濯機	73.6	77.9	74.0	73.9
掃除機	70.3	75.5	72.8	81.3
電子レンジ	75.6	79.4	80.0	82.4
エアコン	38.4	43.2	70.9	78.8
ストーブ・ファンヒーター	16.6	19.0	27.7	35.4
CD・MP3プレーヤー	32.5	59.8	81.3	86.4
DVD・Blu-rayDiscプレーヤー	31.5	28.1	23.4	4.0
デジタルカメラ	22.9	42.6	22.4	-
ビデオカメラ	1.7	1.8	2.0	-
ゲーム機	43.5	54.5	47.0	44.1
パソコン(インターネットに接続しているもの)	12.9	21.7	46.3	-
パソコン(インターネットに接続しているもの)	79.9	79.9	54.4	51.0
タブレット	11.5	-	-	-
自動車	19.9	24.1	27.3	34.0
二輪車(原付・バイク)	6.8	10.8	10.7	10.7
自転車	83.8	84.4	86.5	90.6
クレジットカード	22.5	19.7	25.7	20.9
新聞(Web購読含む)	7.7	10.4	19.9	-



Q5 あなたは自動車やバイク（原付）の運転免許を持っていますか [択一]

運転免許の保有状況は、「持っている」が61.5%に対して、「持っていない」が36.8%であった。およそ6割の学生が何かの運転免許を持っているようである。男子学生における「持っている」が65.0%に対して、女子学生が58.2%であることから、運転免許の保有状況は男子学生のほうがやや高い傾向にあると言えそうである。

運転免許を「持っている」割合は、「持っていない」割合より高いという状況に、年度による違いはない。一方で2001年度の「持っている」が65.6%に対して、2015年度は61.5%であることから、近年運転免許の保有状況はわずかではあるが下がっている傾向にある。

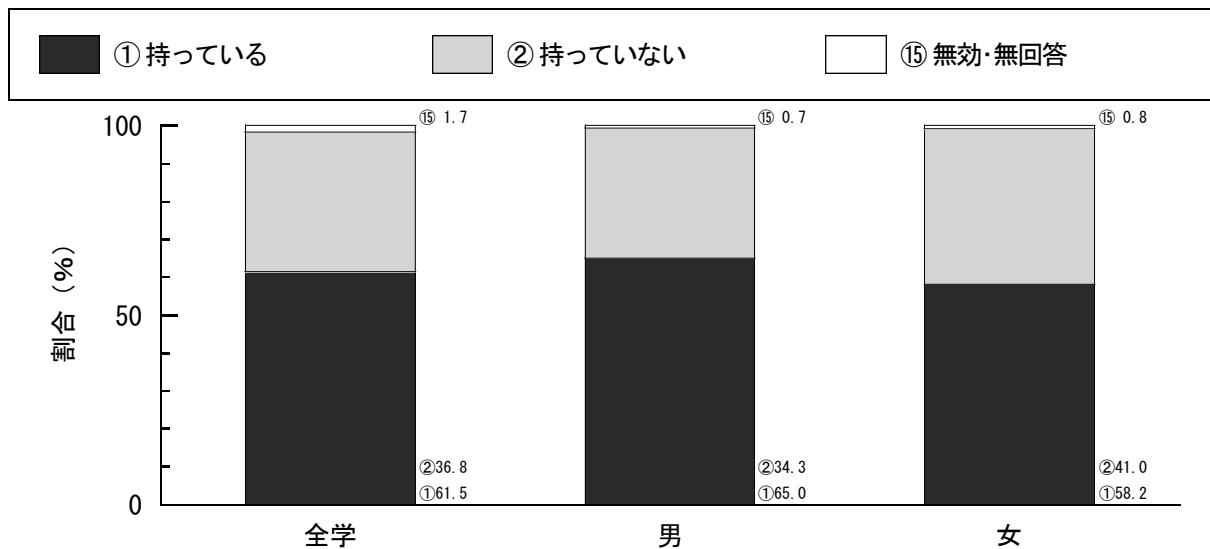


図2-6-a Q5の集計結果（全学・男・女別）

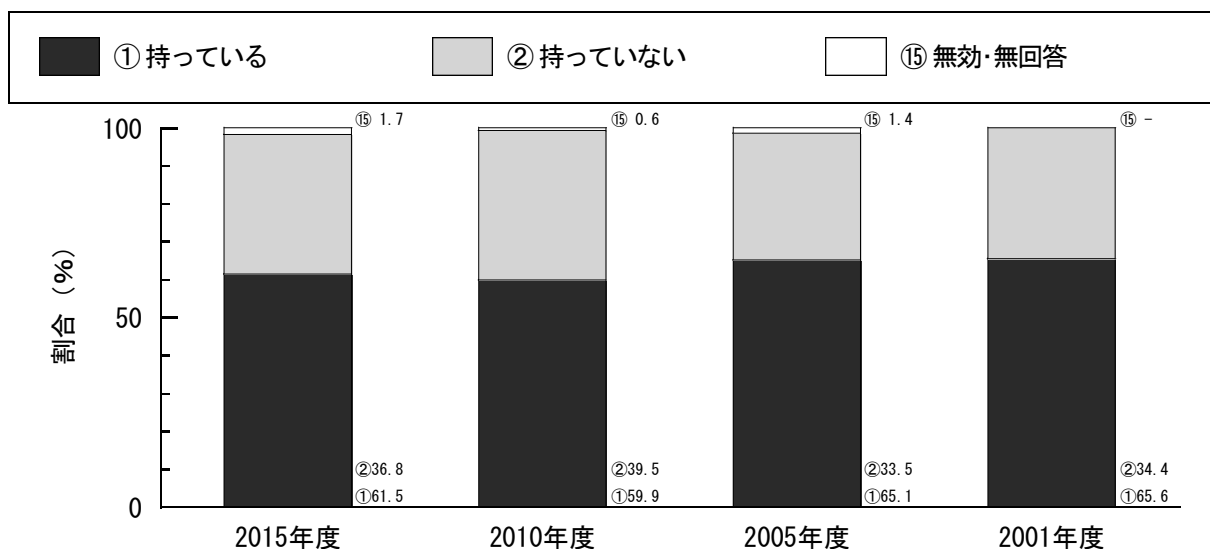


図2-6-b Q5の集計結果（全学に関する調査年度別）

Q5-SQ1 運転免許は何を持っていますか〔複数選択可〕

保有する運転免許の種類で最も多いのが、「普通自動車」の95.9%であった。次いで「原付免許」の12.3%、そして「自動二輪」の3.6%となっている。男女ともにその順位に変動はないが、「自動二輪」の保有状況に関しては、男子学生5.4%に対し、女子学生0.8%という違いがある。

いずれの年度においても「普通自動車」の保有率が最も高いが、2001年度では59.8%と他年度に比べて低い傾向にあった。また「原付免許」に関しては、2001年度と2010年度が他の年度より人気があったようである。

表2-3-a Q5-SQ1の集計結果(全学・男・女別)

	全学	男	女
普通自動車	95.9	94.8	97.6
自動二輪	3.6	5.4	0.8
原付免許	12.3	12.7	11.9
その他	0.4	0.2	0.5

表2-3-b Q5-SQ1の集計結果(全学に関する調査年度別)

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
普通自動車	95.9	95.0	94.5	59.8
自動二輪	3.6	6.1	5.5	3.2
原付免許	12.3	17.4	12.4	22.5
その他	0.4	0.7	0.4	-

Q6 通学は何を利用していますか（通常利用しているもの）〔複数選択可〕

「自転車」と回答した学生が最も多く 79.2%であった。次いで「徒歩」の 40.2%であった。この設問は複数回答可であることから、ほとんどの学生は「自転車」または「徒歩」で通学しているようである。「自動車」で通学している割合は 8.6%であった。通学手段として「自転車」または「徒歩」が主に用いられる傾向は、男女間においても違いは無いと言えるだろう。「バイク」に関しては、男子学生 4.4%、女子学生 0.6%であることから男子学生は女子学生よりも「バイク」通学を選択する傾向が若干ではあるが高くなるように感じられる。

年度による基本的な通学手段の違いは見られない。ただし「徒歩」の選択率に関しては、2015年度では2010年度までの値よりはおよそ 10%増加している。また「バイク」や「自動車」に関しては、2001年度よりわずかに減少傾向にあるように感じられる。

表 2-4-a Q6 の集計結果（全学・男・女別）

	全学	男	女
鉄道	2.5	1.9	3.1
バス	0.9	0.4	1.7
自転車	79.2	75.4	86.0
バイク	2.8	4.4	0.6
自動車	8.6	9.0	8.2
徒歩	40.2	37.5	44.7
その他	0.3	0.5	-

表 2-4-b Q6 の集計結果（全学に関する調査年度別）

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
鉄道	2.5	2.3	2.9	3.6
バス	0.9	0.9	0.4	0.8
自転車	79.2	80.7	81.2	76.7
バイク	2.8	4.9	5.9	6.6
自動車	8.6	7.1	10.2	11.0
徒歩	40.2	29.9	28.3	30.4
その他	0.3	0.2	0.1	0.2

Q7 通学に要する平均的な時間（片道）はどのくらいですか [択一]

最も多かったのは「10分未満」で62.3%、次いで「10～20分」で27.8%であった。この両者の合計は90.1%であり、ほとんどの学生は20分以内が通学所要時間であると言える。この両者の合計値に関して男女間に違いはほとんどみられない。一方で男子学生は「10分未満」が67.7%であるのに対して女子学生は56.8%と男子学生より低く、「10～20分」に関して男子学生は23.6%であるのに対して女子学生は33.6%と男子学生より高い。よって女子学生のほうが少し通学所要時間は長い傾向にある。

2010年度の値と比較しても、両者に大きな違いはみられなかった。

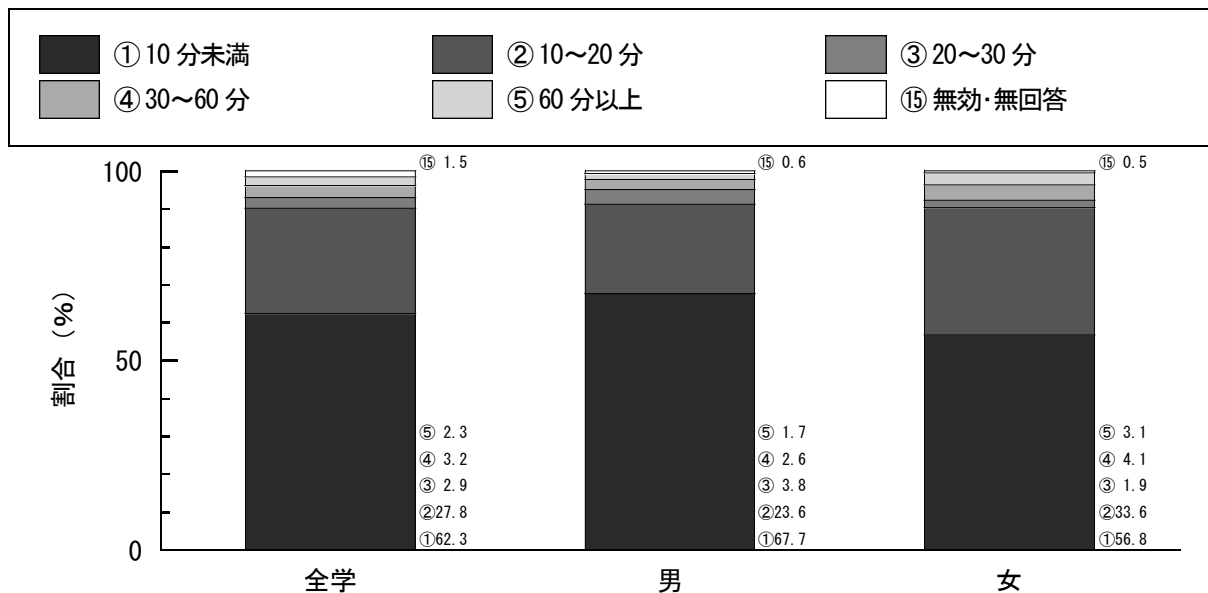


図2-7-a Q7の集計結果（全学・男・女別）

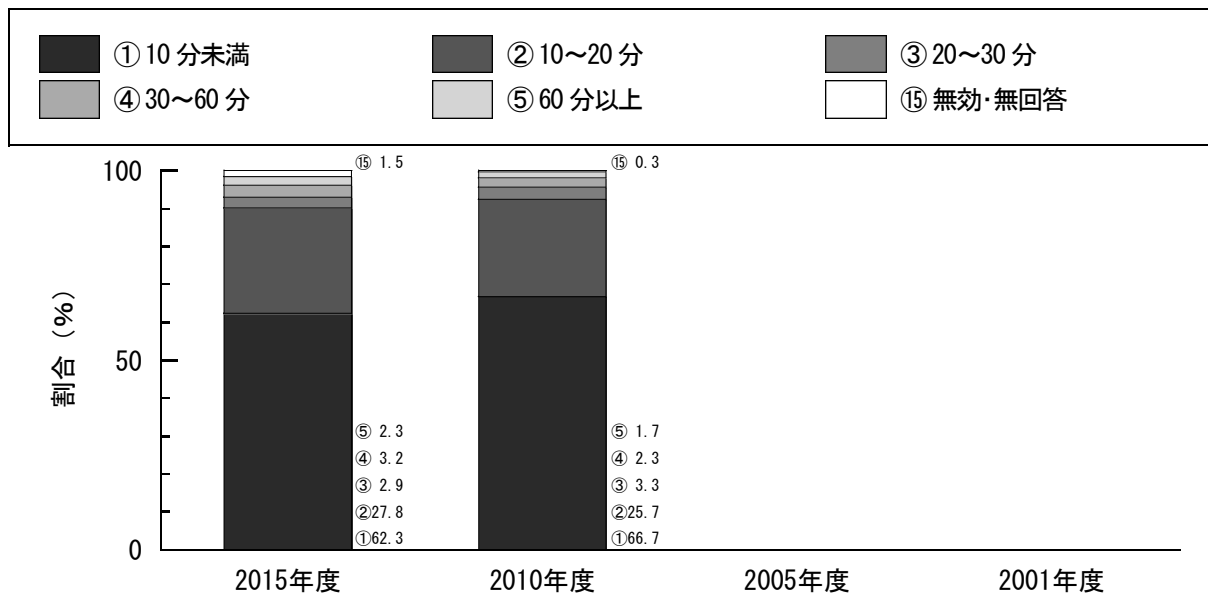


図2-7-b Q7の集計結果（全学に関する調査年度別）

Q8-a1 <1ヶ月の平均の収入について>

【自宅外通学者のみ】家庭からの仕送り(額・光熱費を含む、授業料など一時期まとめて支払うものは除く) [択一]

自宅外通学者の仕送額は「4万円～6万円未満」が最も多く25.8%、次いで「2万円～4万円未満」で21.5%、そして「6万円～8万円未満」の13.8%となっている。また「なし」を選択した学生も14.7%と少なくない。男女間の差異はほとんどみられない。

2010年度までで「なし～8万円未満」をみると、2001年度51.0%、2005年度61.2%、2010年度81.4%と増加傾向にあることがわかる。一方で「8万円以上」は、2001年度48.5%、2005年度38.3%、2010年度14.9%と減少傾向にある。この期間は仕送りが減少していたと考えて良いだろう。2010年度と2015年度では大きな変化はみられない。

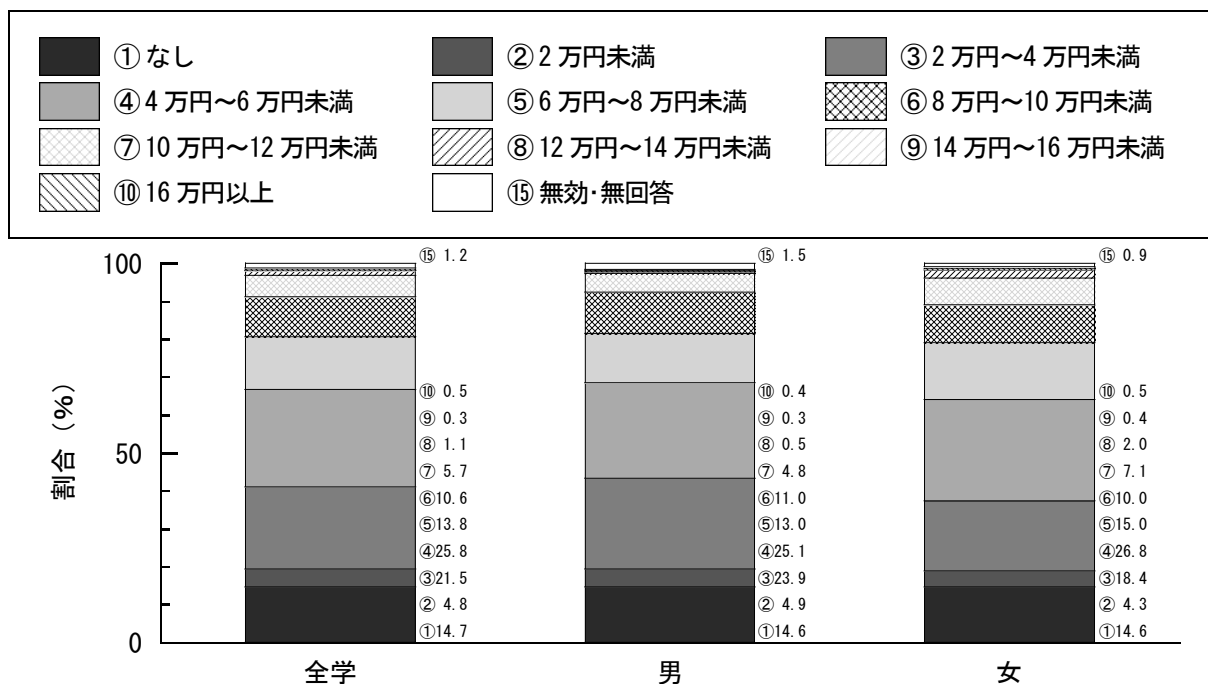


図2-8-a Q8-a1の集計結果(全学・男・女別)

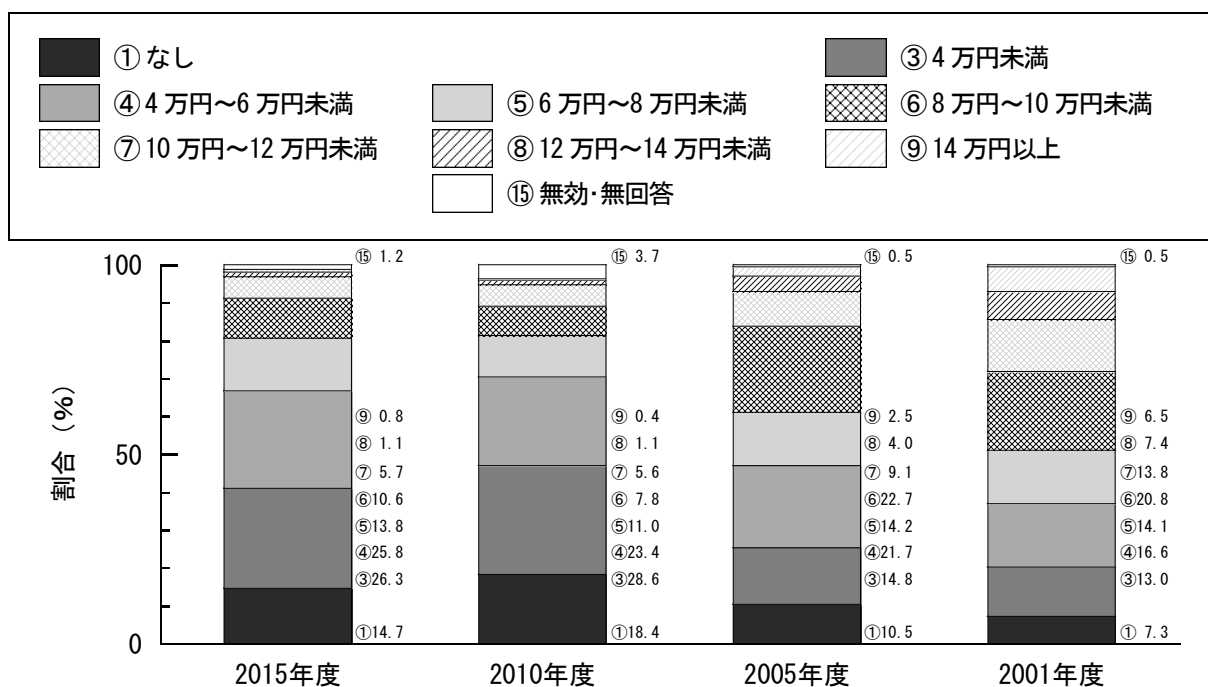


図2-8-b Q8-a1の集計結果(全学に関する調査年度別)

## Q8-a2 <1ヶ月の平均の収入について>

### 【自宅通学者のみ】家庭からもらうお小遣い・昼食費等 [択一]

自宅通学者のお小遣いは、「なし」と回答した学生が最も多く 36.3%であった。「なし」以外では「1万円～2万円未満」が最も多く 27.0%、次いで「1万円未満」の 19.0%、そして「2万円～3万円未満」の 5.5%となっている。この3者の合計は 51.5%である。「なし」に関して男子学生は 40.0%に対して女子学生 31.6%と高い傾向にある。しかし先の3者合計に関しては、男子学生 51.7%、女子学生 52.7%でありほとんど差はみられない。

「なし」に関しては 2005 年度から 2015 年度までで大きな変化はみられない。一方で「2万円未満」の回答率は 2005 年度 31.1%に対して 2015 年度 46.0%と増加傾向にあるが、「2万円～4万円未満」と「4万円以上」はともに減少傾向にある。自宅通学者のお小遣いは減っている傾向にあると言えそうである。

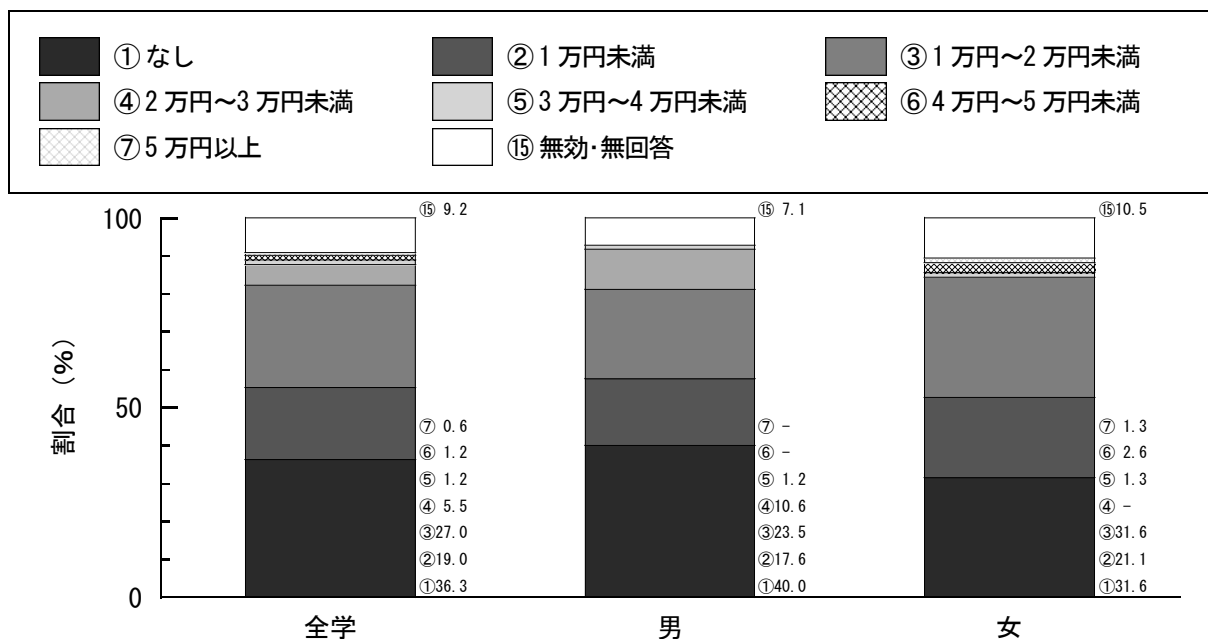


図 2-9-a Q8-a2 の集計結果 (全学・男・女別)

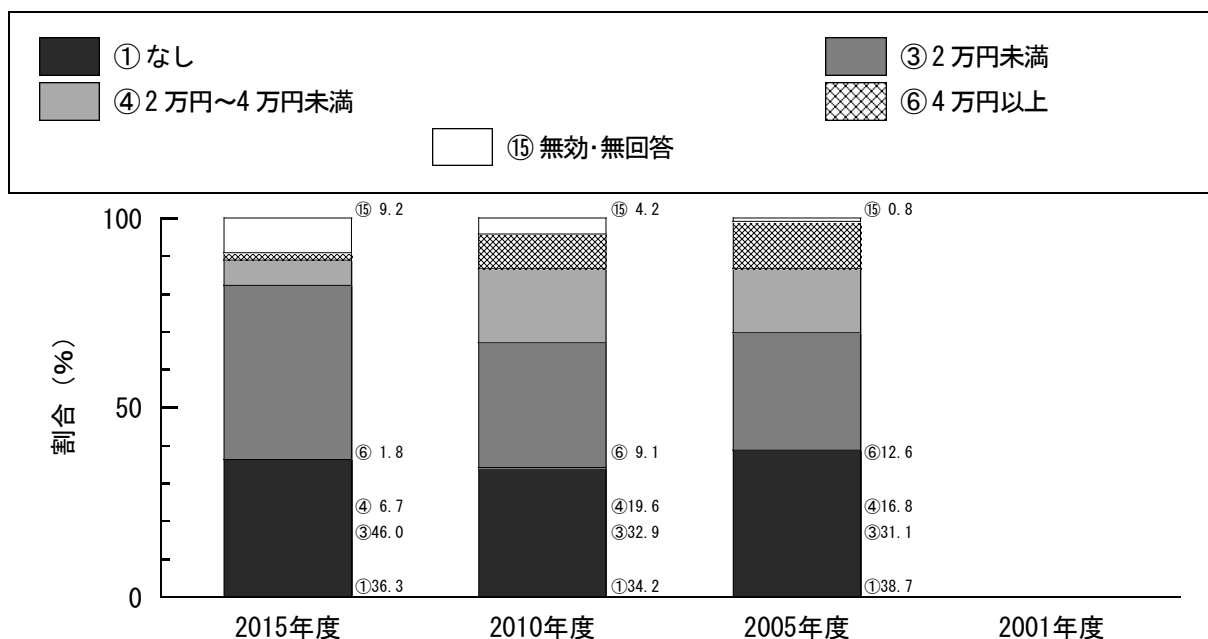


図 2-9-b Q8-a2 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q8-b <1ヶ月の平均の収入について>

日本学生支援機構の奨学金 [択一]

「なし」が56.4%と最も多かった。奨学金を受けている中で最も多かったのが「5万円～6万円未満」で13.4%、次いで「4万円～5万円未満」の10.9%、そして「3万円～4万円未満」の5.6%であった。「10万円以上」と回答した学生も少なくとも4.3%であった。男女間に違いはほとんどみられない。

「なし」に関しては、2001年度72.9%、2005年度61.6%、2010年度51.1%と減少傾向にあったが、2015年度は56.4%と反発している。2001年度と2005年度において奨学金を受けている中では「4万円～5万円未満」がおおよそ20%で最も多かったが2010年度より「5万円～6万円未満」が最も高くなっている。また2010年度は、奨学金を受けている学生が最も多かった。

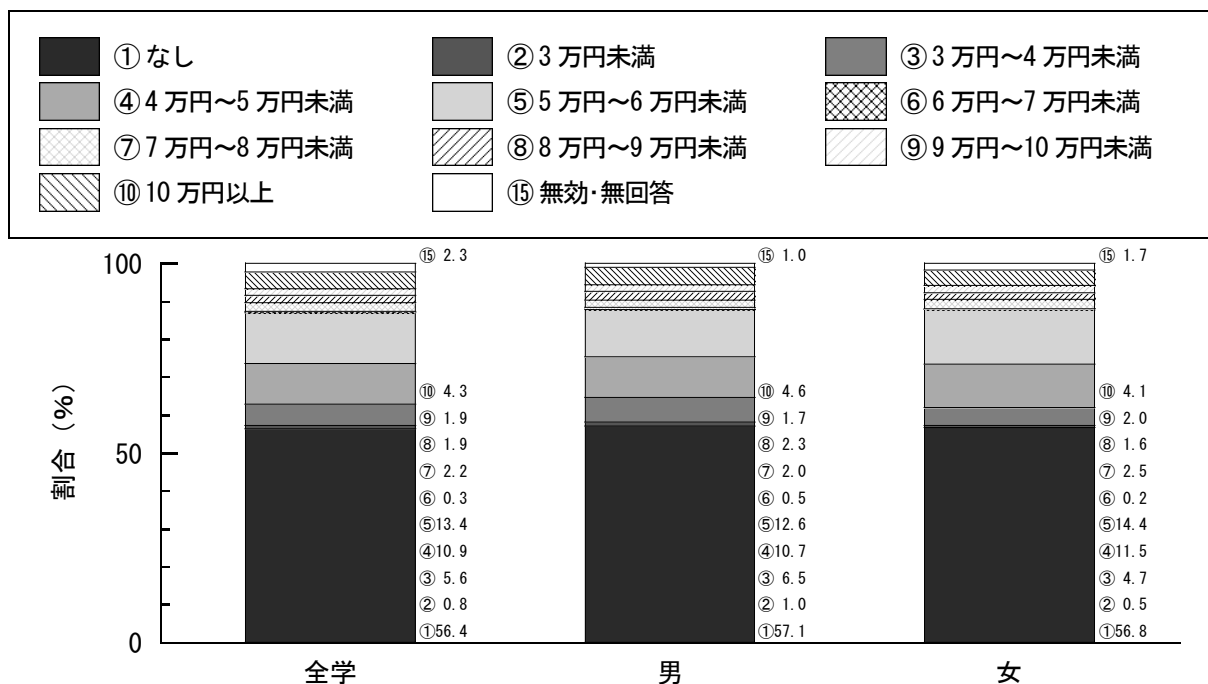


図2-10-a Q8-bの集計結果 (全学・男・女別)

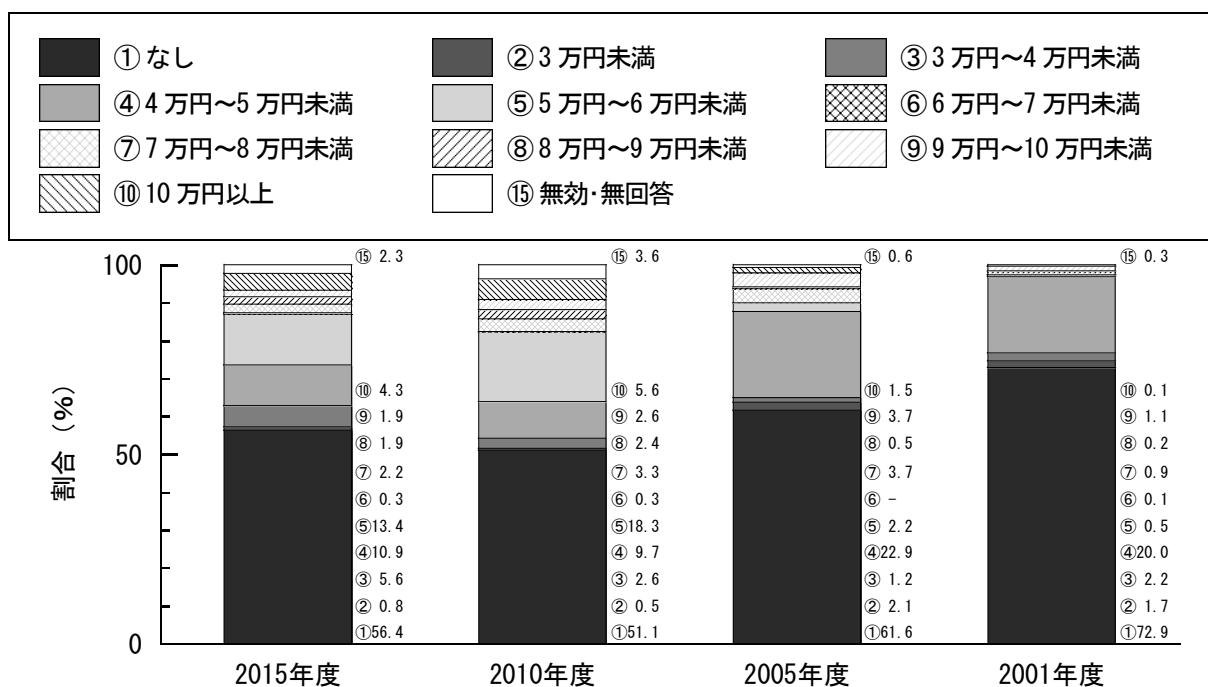


図2-10-b Q8-bの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q8-c <1ヶ月の平均の収入について>

日本学生支援機構以外の奨学金（給付、貸与を問いません）[択一]

日本学生支援機構以外の奨学金を受けている学生は、5.5%と非常に低い。この傾向は男女間でも違いはほとんどみられず、受けている金額に関しても違いはみられない。

2010年度および2015年度の「無効・無回答」がおよそ5%であることを踏まえると、調査年度間における「なし」の割合や受けている金額に関しても違いはみられない。

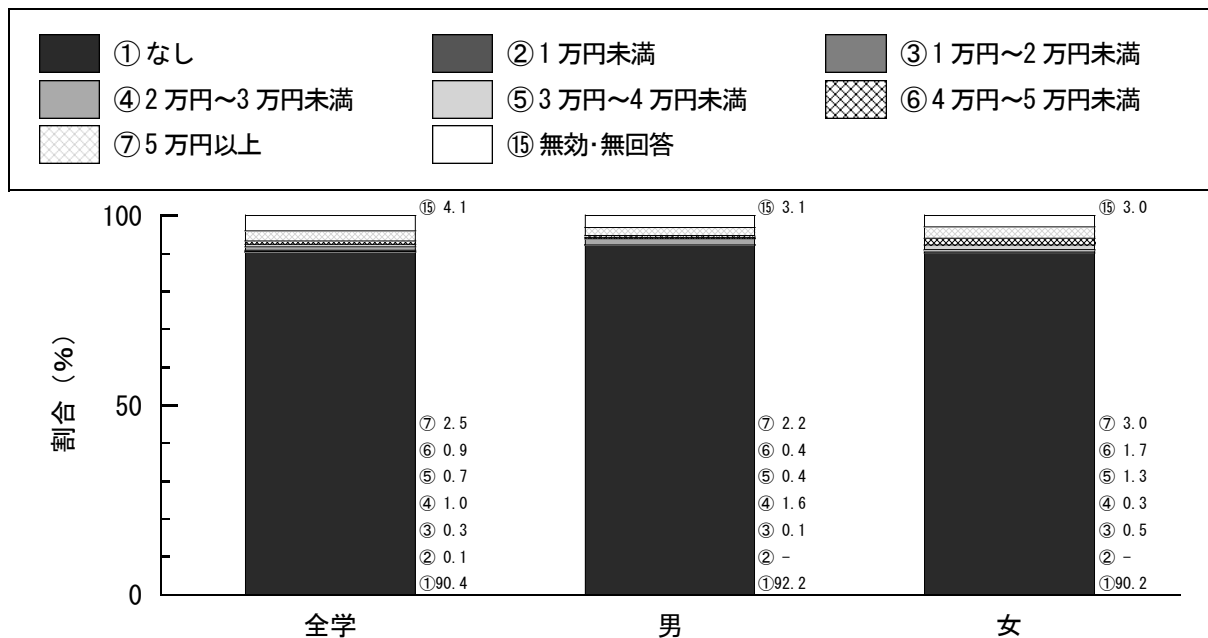


図2-11-a Q8-cの集計結果（全学・男・女別）

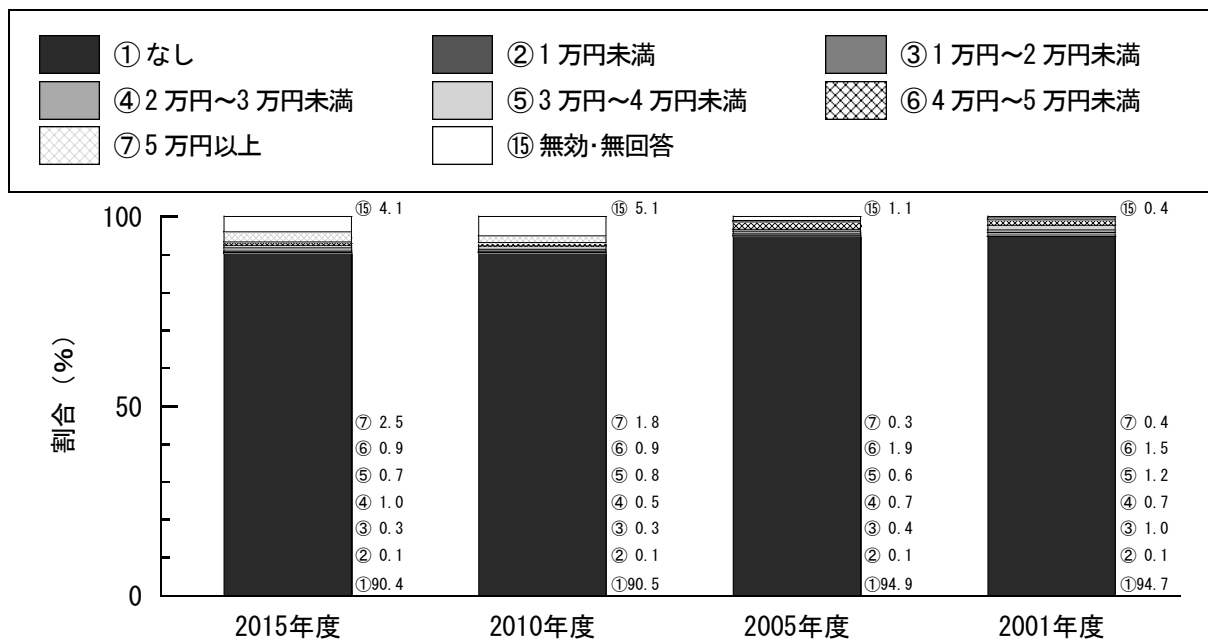


図2-11-b Q8-cの集計結果（全学に関する調査年度別）



Q8-d <1ヶ月の平均の収入について>

アルバイト収入 [択一]

「なし」と回答した学生は42.3%であった。アルバイト収入がある中で最も多いのは「2万円～3万円未満」の13.1%で、「6万円未満」と回答した学生はそれぞれ5%以上いる。その合計値は46.0%であった。「なし」の回答状況に関しては若干女子学生が低いように感じられる。一方で「6万円未満」の割合に関しては、男子学生43.2%に対して女子学生51.3%であり、女子学生のほうがアルバイト収入を得ている割合が高いと思われる。

「なし」に関しては、2001年度から2010年度までは48%でほとんど変化はみられないが、2015年度42.3%と下がっている。一方で「6万円未満」の割合は2001年度42.0%、2005年度42.3%、2010年度40.8%、2015年度46.0%と2015年度にて増加がみられ、アルバイト収入を得ようとしている傾向が若干高まっているように見受けられる。

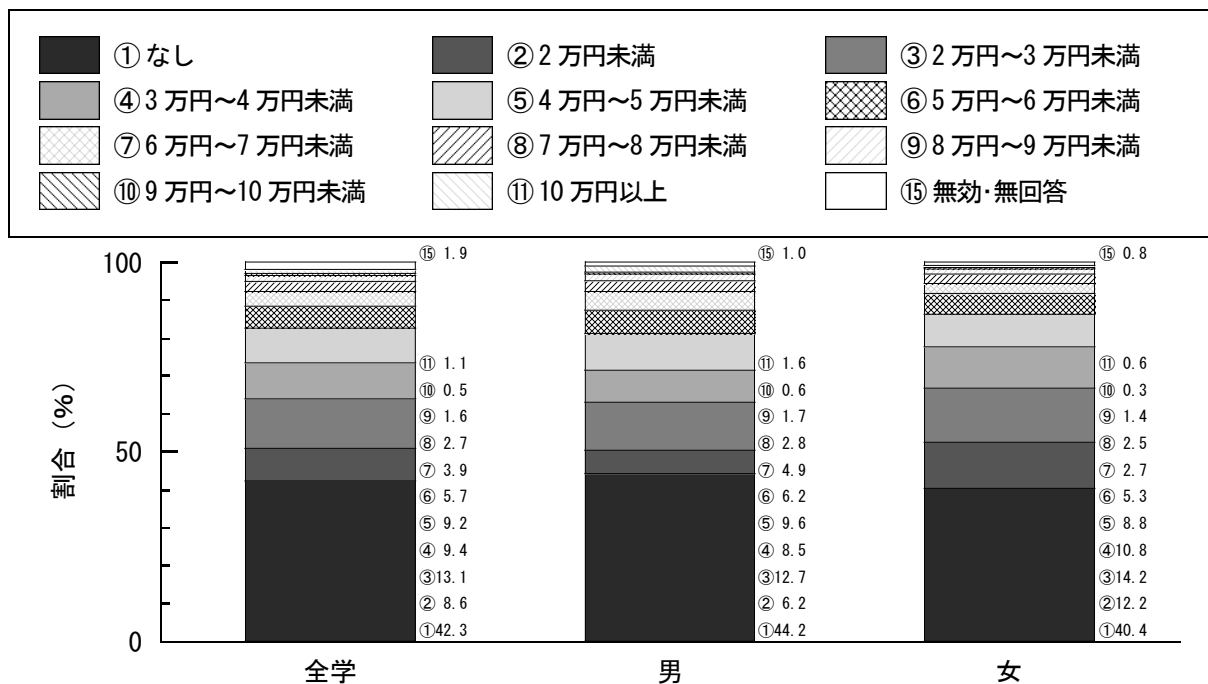


図2-12-a Q8-dの集計結果 (全学・男・女別)

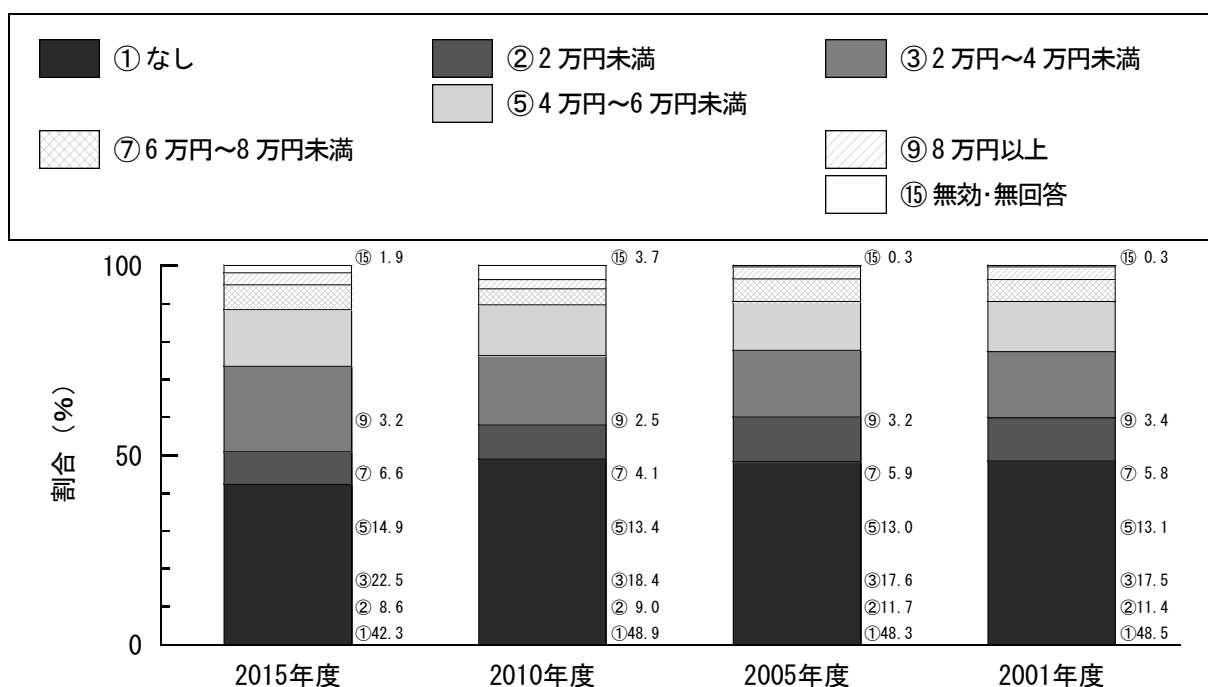


図2-12-b Q8-dの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q8-e <1ヶ月の平均の収入について>

定職収入その他 [択一]

ほとんど全ての学生が「なし」と回答しており、男女間の相違もみられない。

調査年度間において、ほとんどの学生が「なし」と回答しており、2001年度から2015年度においてその金額の分布に関しても相違を見出すことができない。

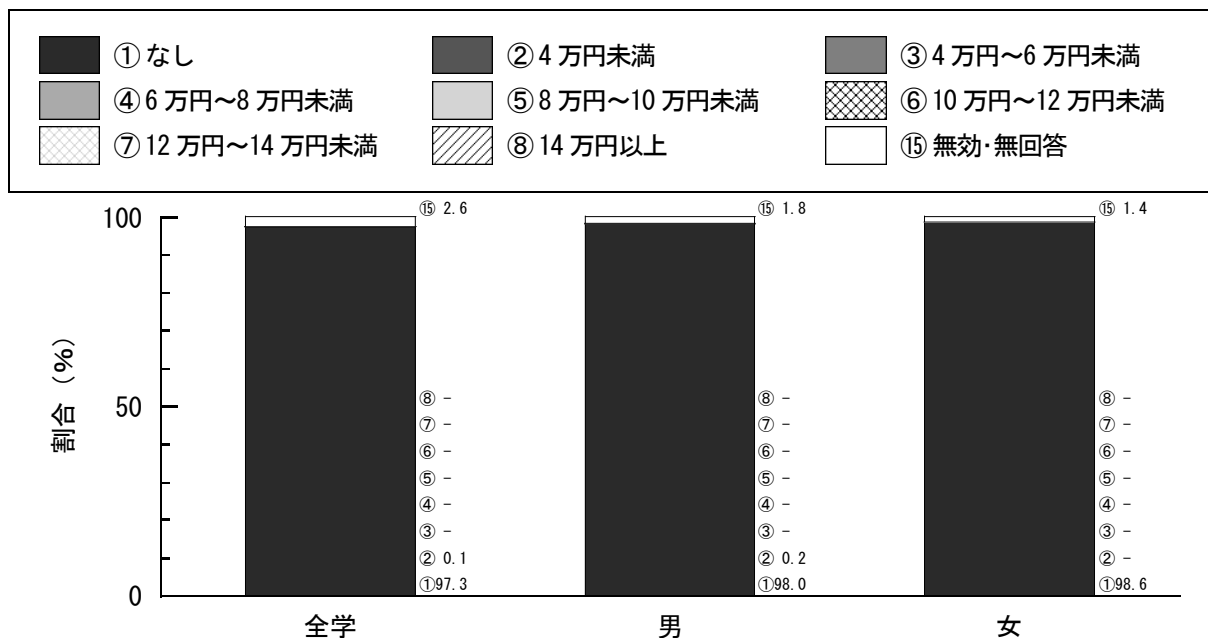


図2-13-a Q8-eの集計結果 (全学・男・女別)

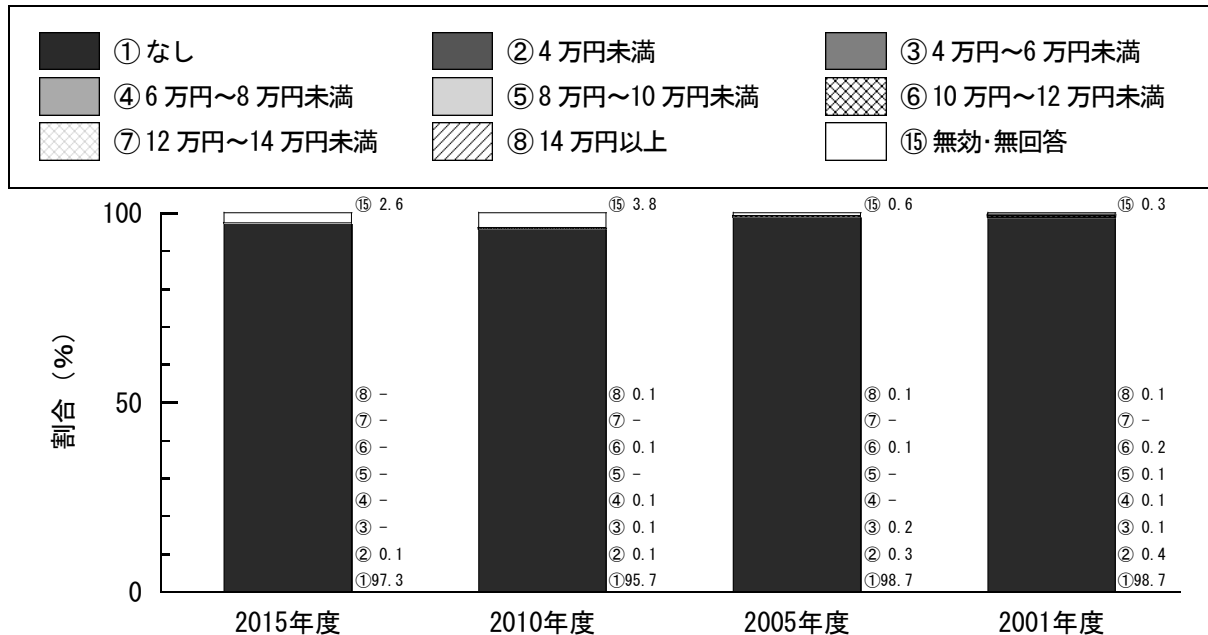


図2-13-b Q8-eの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q8-f <1ヶ月の平均の収入について>

収入額合計（上記a～e）〔択一〕

最も高いのは「9万円～12万円未満」で21.2%であり、次いで「6万円～9万円未満」の19.8%、そして「3万円～6万円未満」の17.5%、「3万円未満」の17.1%と続いている。また「12万円～15万円未満」の11.8%と「15万円～18万円未満」の5.7%も少なくない。男女間による違いはほとんどみられない。

「12万円未満」は、2001年度61.5%、2005年度69.9%、2010年度74.9%、2015年度75.6%と増加傾向にある。一方で「12万円～18万円未満」に関しては、2001年度31.9%、2005年度26.5%、2010年度16.9%、2015年度17.5%とおよそ減少傾向にある。よって学生の収入額は2001年度から2010年度までにおいて減少していたと言えそうである。

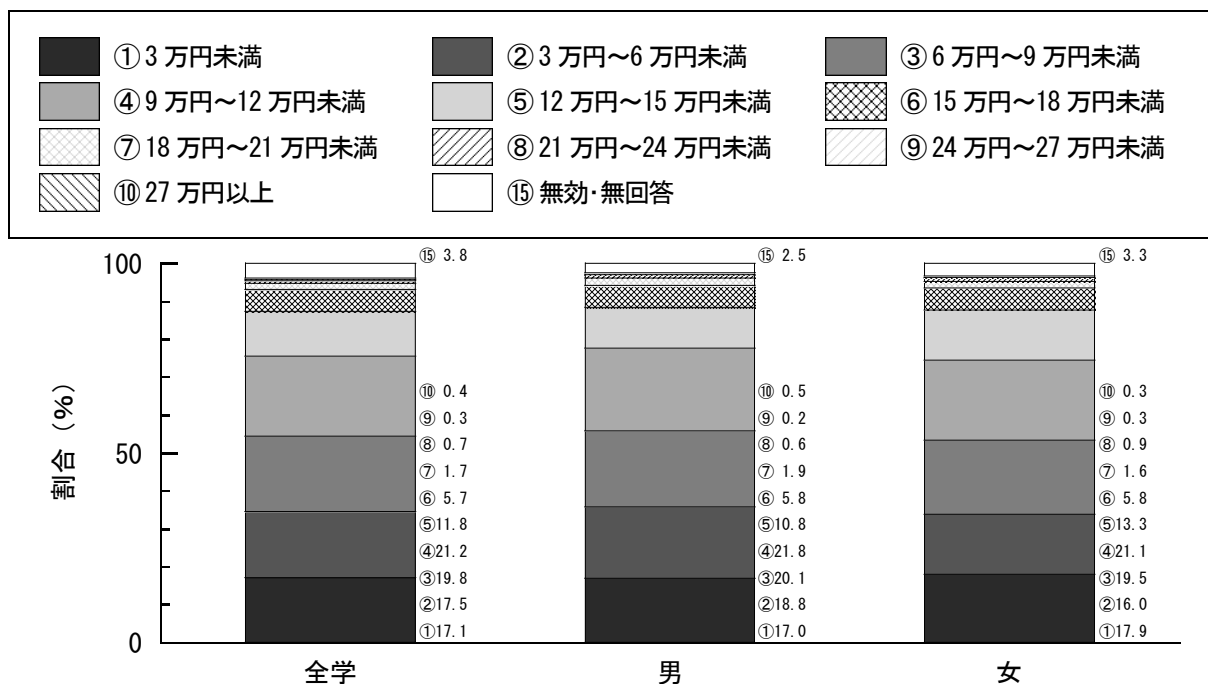


図2-14-a Q8-fの集計結果 (全学・男・女別)

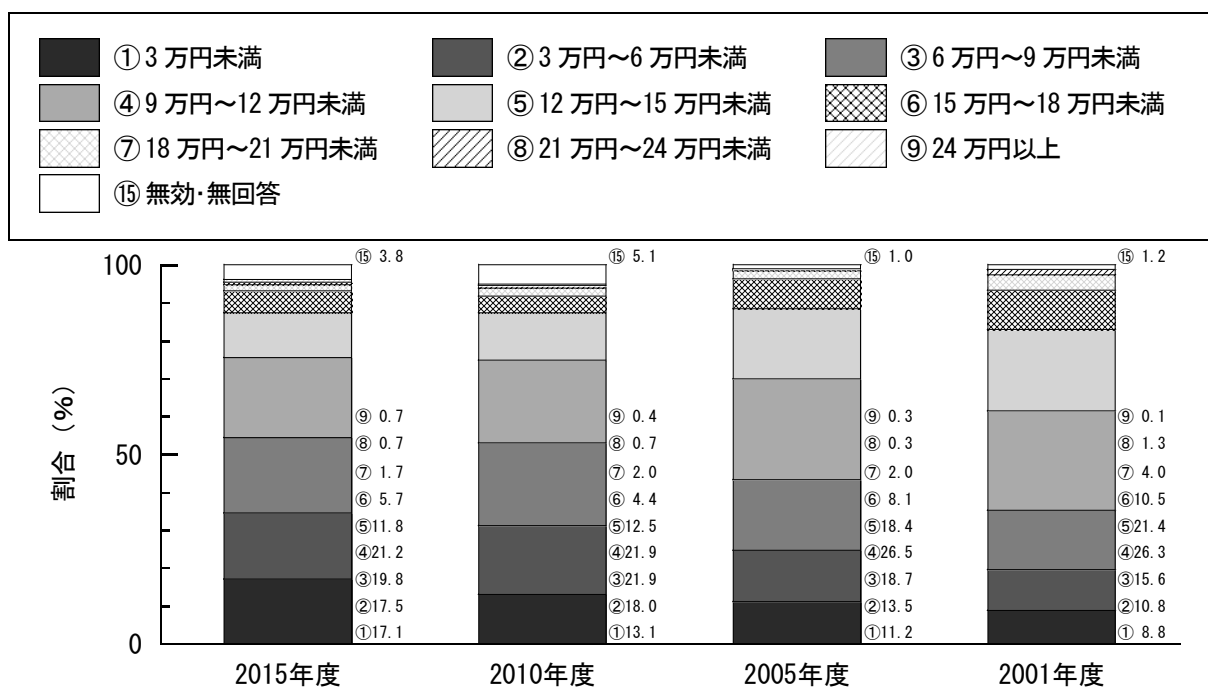


図2-14-b Q8-fの集計結果 (全学に関する調査年度別)

### Q9 あなたは授業料等を主にどこから支払っていますか [択一]

「別途、家庭からの給付で支払っている」が75.8%で最も多かった。次いで「Q8(aを除く)の収入から全額負担している」の10.8%、そして「Q8(aを除く)の収入から一部負担し、不足分は家庭からの給付で補填している」の7.9%であった。授業料を学資負担者に頼っているのがおよそ75%で、学費に関して完全に自立しているのは1割程度、学費に関して一部自立しているのも1割程度ということである。この傾向に男女差はない。いずれの年度においても、上記の傾向と同様であり、ほとんど変化はない。

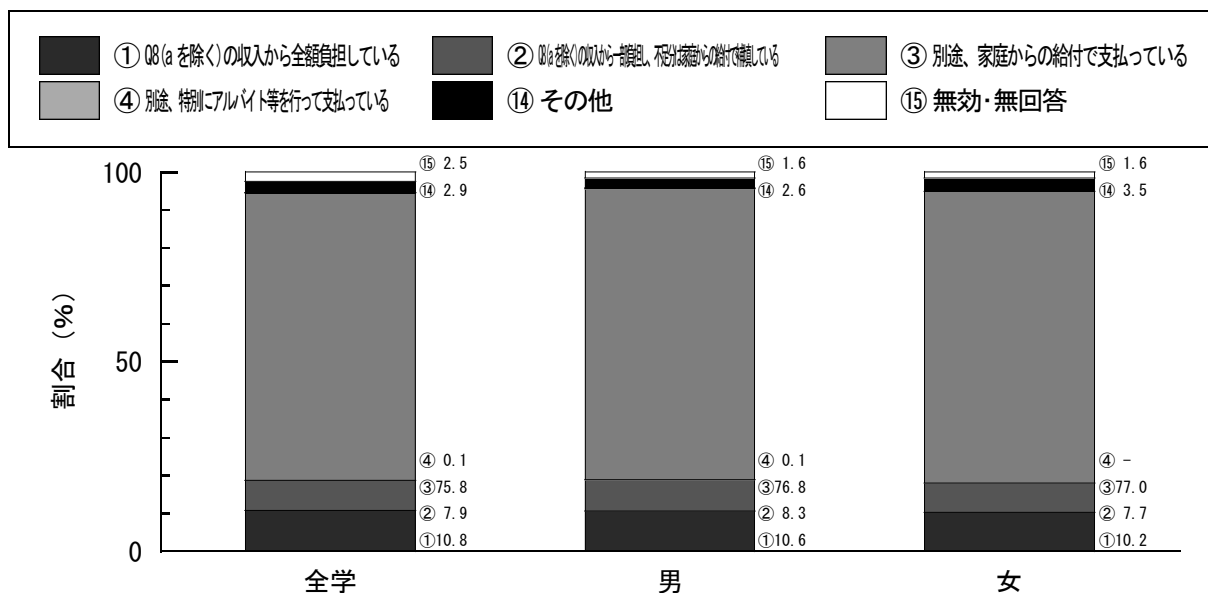


図2-15-a Q9の集計結果(全学・男・女別)

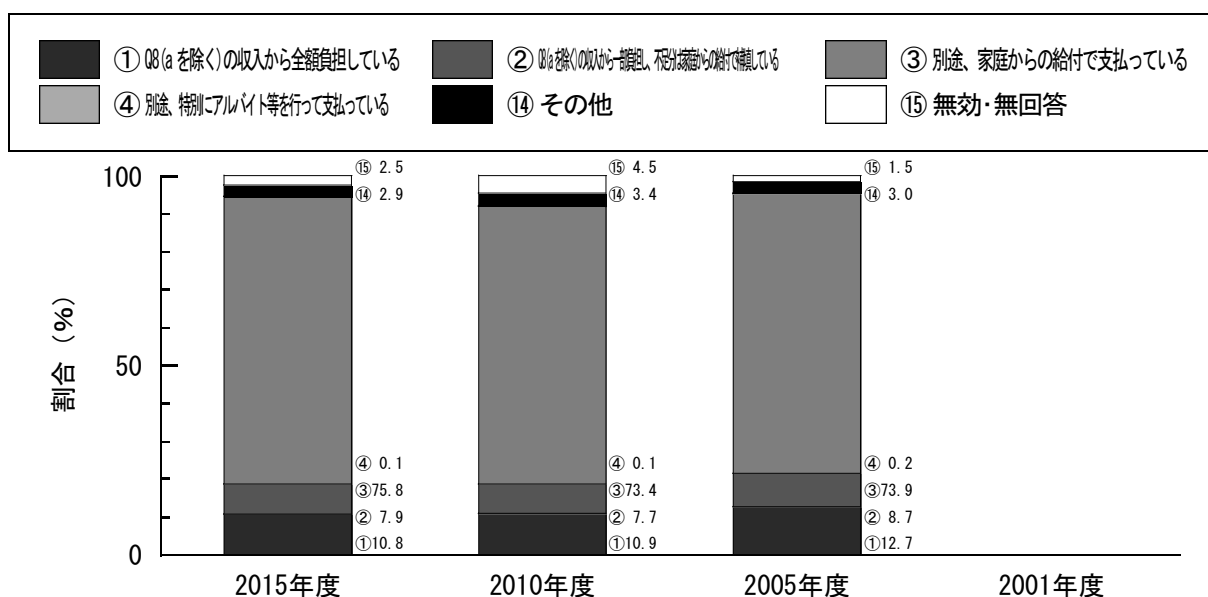


図2-15-b Q9の集計結果(全学に関する調査年度別)

Q10-a <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>

修学費（教科書、参考書、ノート、文房具、実習費、実習旅費など授業を受ける為の経費）[択一]

修学費に関して最も多いのは「5千円未満」で54.6%、次いで「5千円～1万円未満」の26.9%、そして「1万円～2万円未満」の9.2%となっている。この3者の合計は90.7%で大多数を占めている。男女間の相違はほとんどみられない。

2001年度以外の年度では上位3つの項目名は2015年度と同様である。2001年度では「なし」が最も大きく30.2%であった。「2万円未満」に関しては、2001年度53.5%、2005年度81.4%、2010年度86.9%、2015年度90.7%と増加傾向がみられる。一方で「2万円以上」に関しては、2001年度14.6%、2005年度12.1%、2010年度5.3%、2015年度3.2%と減少傾向がみられる。修学費は下がっている傾向にあると言えそうである。

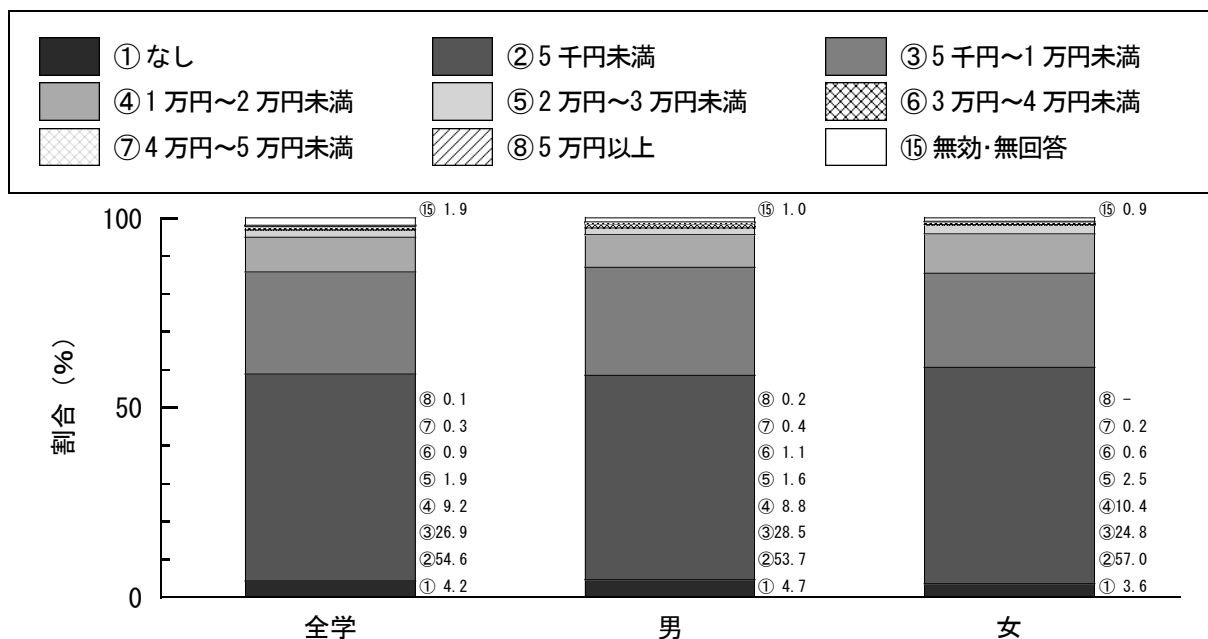


図2-16-a Q10-aの集計結果（全学・男・女別）

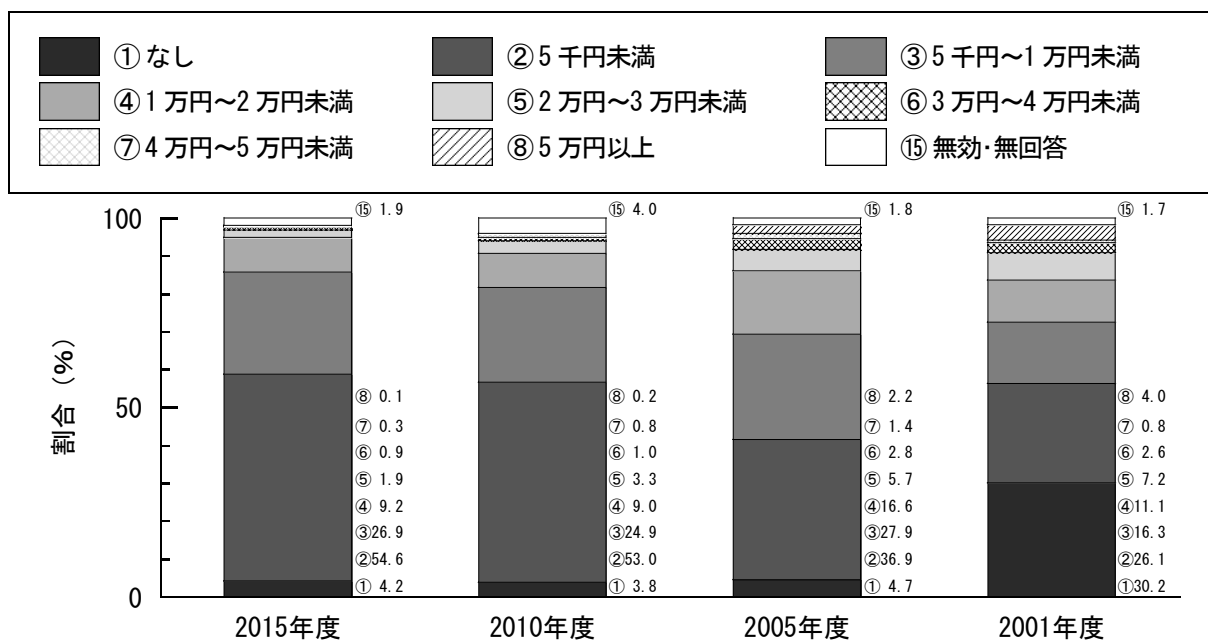


図2-16-b Q10-aの集計結果（全学に関する調査年度別）

Q10-b <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>

課外活動費（部費、遠征費、用具購入費等サークル諸費用）※趣味、娯楽の費用は除く [択一]

課外活動費が「なし」と回答した学生は31.7%であった。次いで「2千円未満」の18.8%、「2千円～4千円未満」の14.8%、「1万円以上」の13.0%、「4千円～6千円未満」の9.6%、「8千円～1万円未満」の6.0%となっている。課外活動は大別して、「なし」、「6千円未満」、「8千円以上」と分類できそうである。男女間における差異はほとんどみられない。

「なし」に関して、2001年度44.4%、2005年度35.0%、2010年度30.3%、2015年度31.7%と2010年度までは減少傾向にあった。「6千円未満」に関しては、2001年度34.1%、2005年度42.2%、2010年度46.4%、2015年度43.2%と、2001年度から2010年度までの間で増加している。「8千円以上」に関してはあまり変化がみられない。

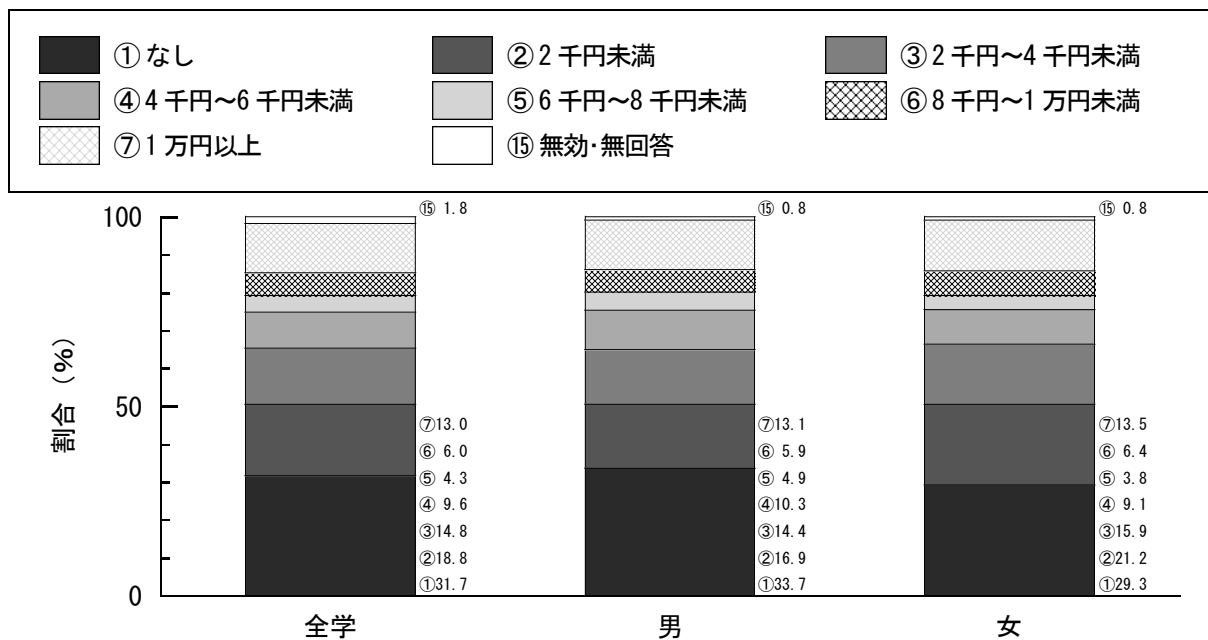


図2-17-a Q10-bの集計結果 (全学・男・女別)

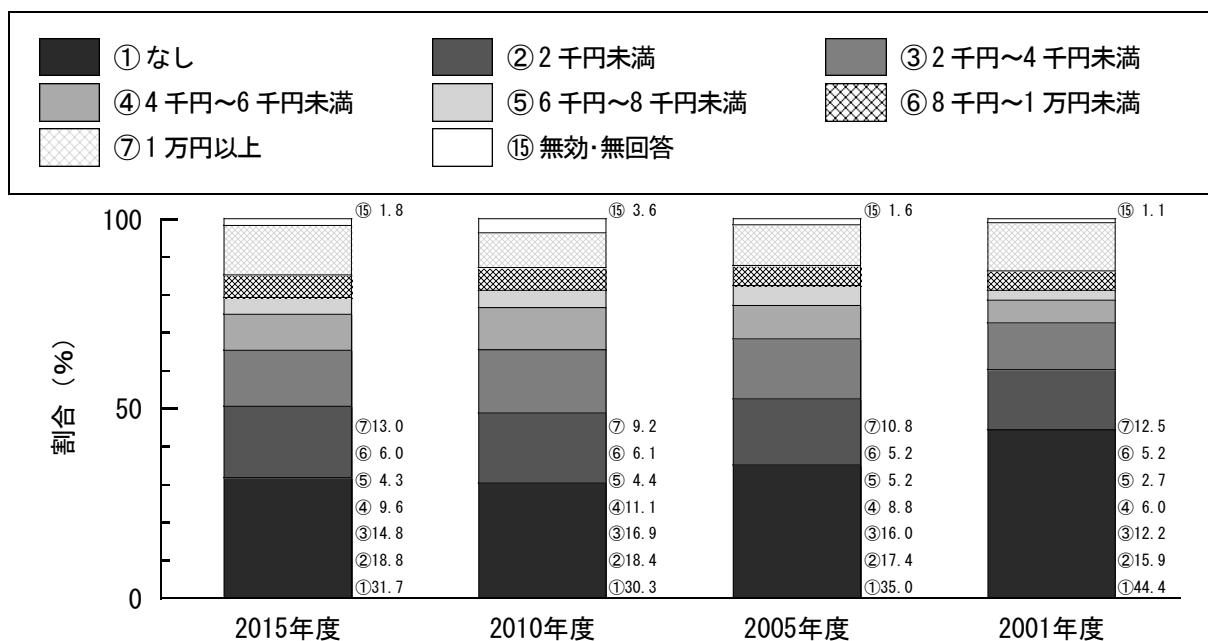


図2-17-b Q10-bの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q10-c <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>

通学費（通学定期、カソリン代、自転車経費等）※自動車、バイク、自転車購入経費等は含まない [択一]

通学費に関して「なし」と回答したのは77.5%であった。次いで「2千円未満」の8.3%となっている。「なし」に関しては男子学生に比べて女子学生のほうが高くなっている。「2千円未満」に関しては男子学生のほうが、女子学生に比べて高いように感じる。女子学生の住居は男子学生に比べてキャンパスに近いということであろう。

通学費に関してほとんどの学生が「なし」と回答し、1割程度が「2千円未満」と回答する傾向は、いずれの調査年度において同様であり、年度間による相違はみられない。

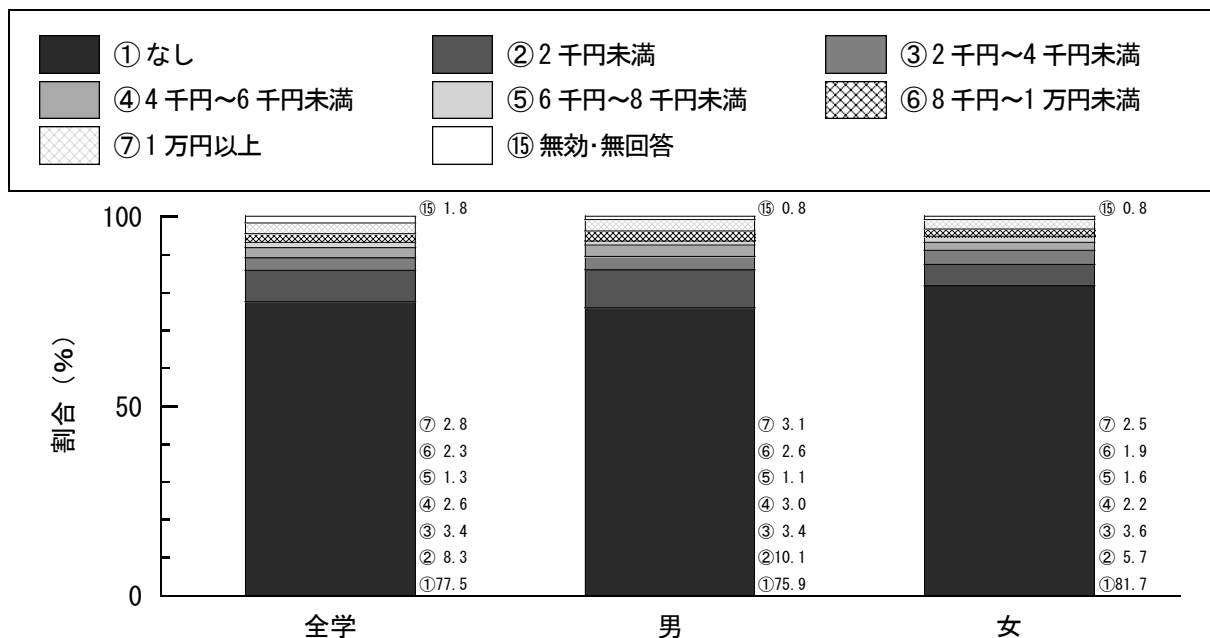


図2-18-a Q10-cの集計結果（全学・男・女別）

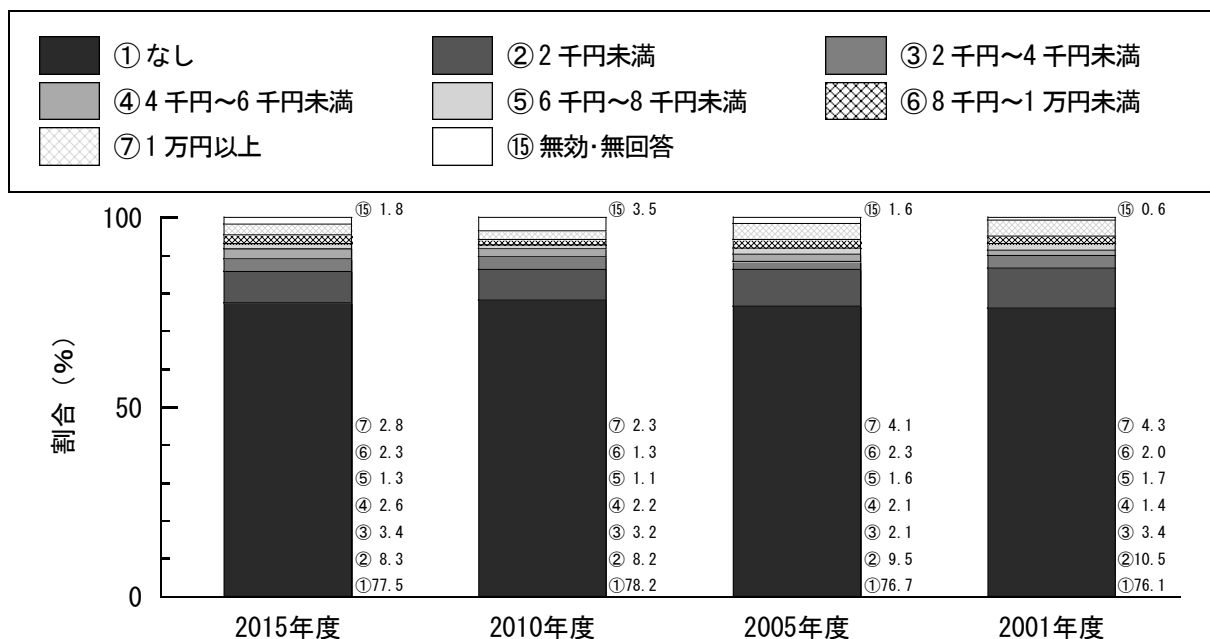


図2-18-b Q10-cの集計結果（全学に関する調査年度別）

Q10-d <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>  
食費（自宅通学者は外食した費用）※嗜好品は除く [択一]

最も高いのは「1万5千円～2万円未満」で18.6%、次いで「1万円～1万5千円未満」で17.2%、そして「1万円未満」15.4%、「2万円～2万5千円未満」14.2%、「2万5千円～3万円未満」11.4%、「3万円～3万5千円未満」10.2%となっている。女子学生に関しては「1万5千円～2万円未満」が25.1%と、男子学生の13.9%と比べて高く、一方で「2万5千円以上」の割合が低くなっている。

2015年度における上位3つの「2万円未満」とそれ以外の「2万円以上」という区分でみる。2001年度において「2万円未満」は40.0%であるのに対して、それ以外の年度はおよそ50%である。一方で2001年度における「2万円以上」は57.3%であるのに対して、それ以外の年度はおよそ45%である。2001年度から2005年度の間で食費が下がっている傾向にあると言えるだろう。

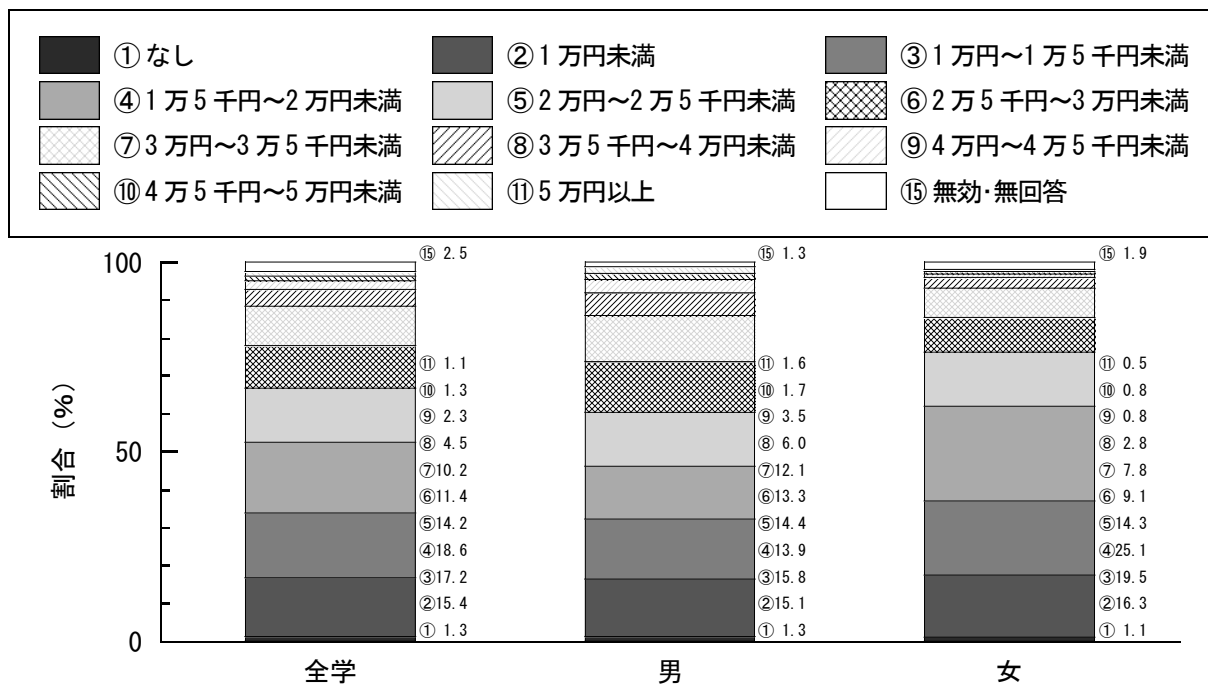


図2-19-a Q10-dの集計結果（全学・男・女別）

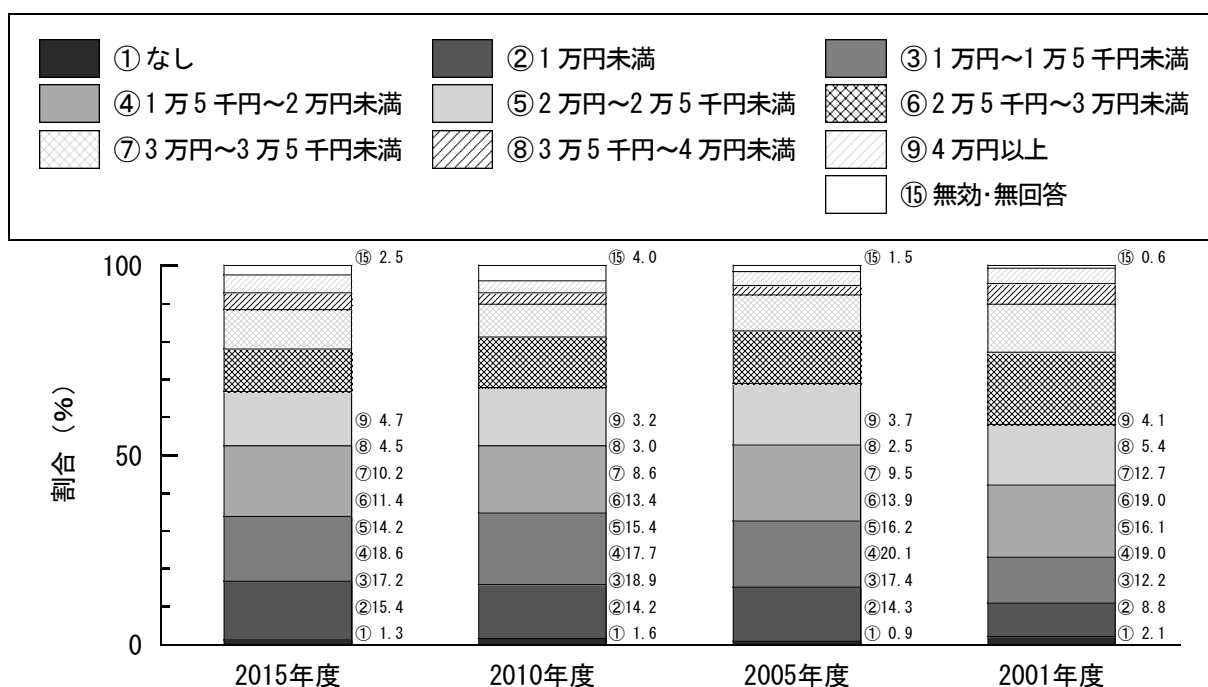


図2-19-b Q10-dの集計結果（全学に関する調査年度別）



Q10-e <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>  
住居・光熱費（自宅通学者は「1」を選択してください）[択一]

最も高いのは、「1万円～2万円未満」で26.1%、次いで「1万円未満」の25.7%、そして「4万円～5万円未満」9.9%、「3万円～4万円未満」8.3%となっている。男子学生の「2万円未満」は57.5%に対して、女子学生は45.3%と女子学生が低い傾向あり、一方で「3万円～5万円未満」に関しては、男子学生16.9%に対して女子学生20.9%と男子学生がやや低いと感じられる。

「2万円未満」に関して、2001年度27.4%、2005年度52.6%、2010年度57.8%、2015年度51.8%となっており、2001年度から2010年度まで増加し、2010年度から2015年度は減少している。「3万円～5万円未満」に関しては、2001年度29.3%、2005年度20.1%、2010年度15.8%、2015年度18.2%となっており、前述とは逆転している傾向にある。

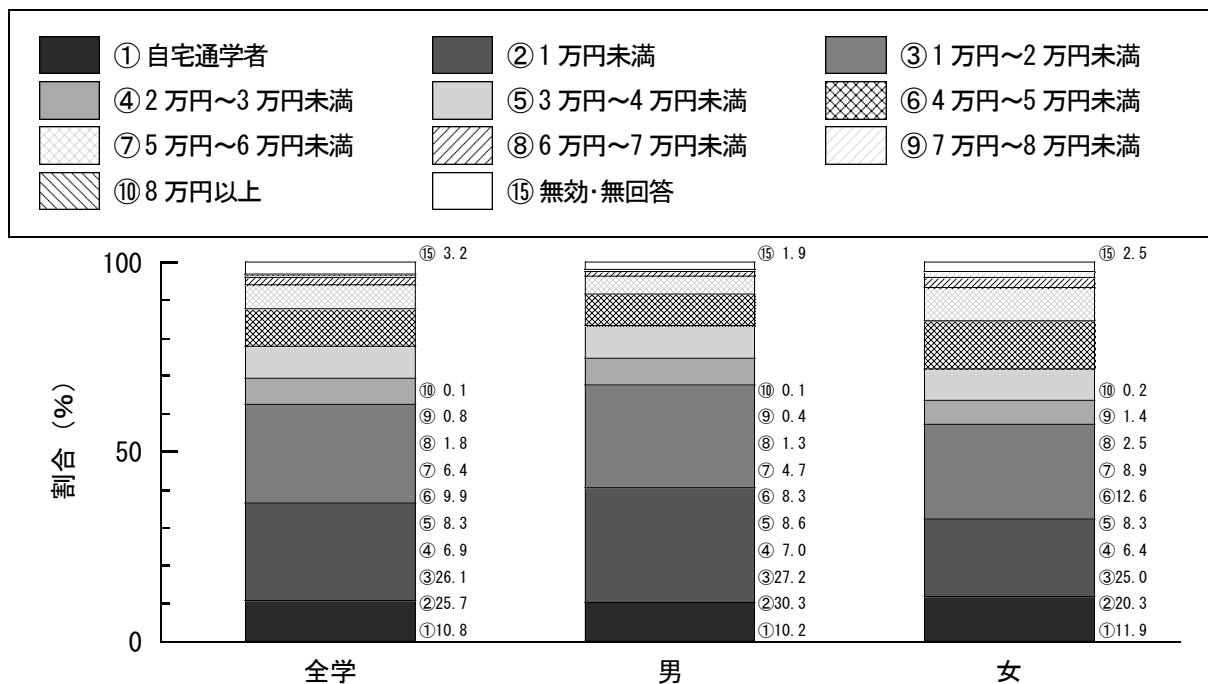


図2-20-a Q10-eの集計結果 (全学・男・女別)

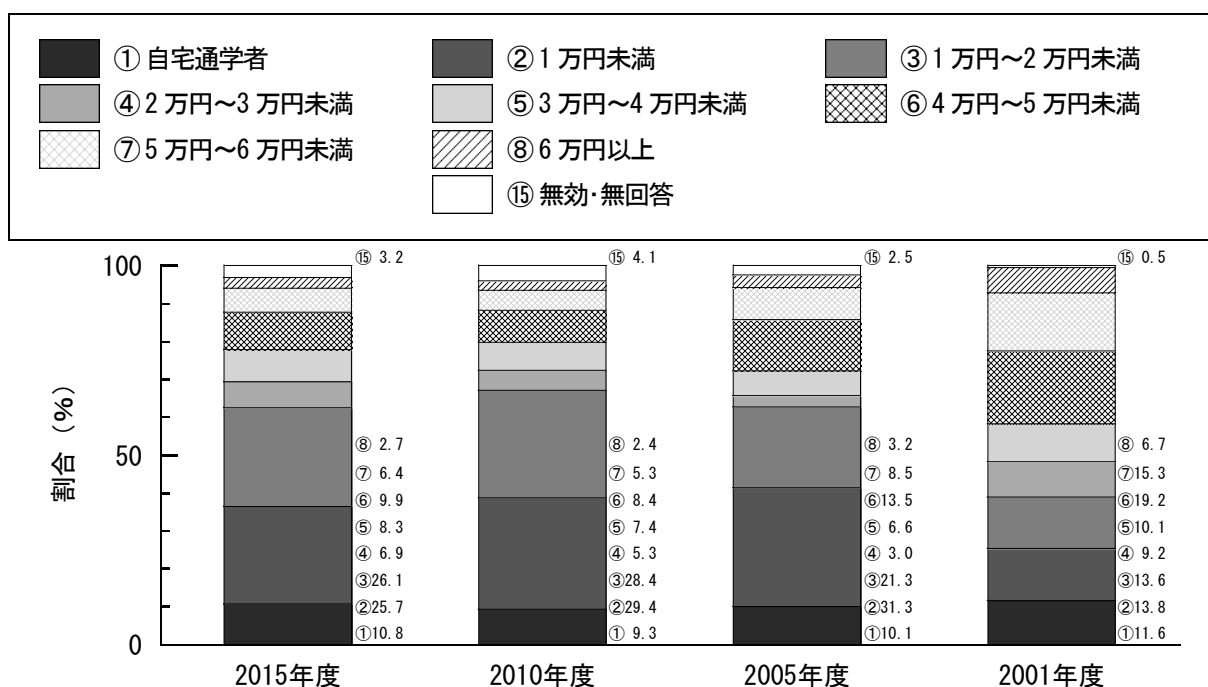


図2-20-b Q10-eの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q10-f <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>

保健衛生費（医療費、薬、理髪美容、銭湯、化粧品等）[択一]

「なし」と回答した学生は 11.2%であった。保健衛生費を計上しているうち最も高いのは、「2 千円未満」の 34.5%、次いで「2 千円～4 千円未満」の 27.5%、そして「4 千円～6 千円未満」の 13.6%となっている。「なし」と回答した男子学生は 15.0%であるのに対して、女子学生は 6.0%であり、男子学生のほうが多い。「6 千円未満」に関しては男子学生 76.2%、女子学生 76.9%と違いはほとんどみられないが、「6 千円以上」に関しては、男子学生 7.6%に対して女子学生 15.1%であり、女子学生のほうが高い。

「なし」に関しては、2001 年度が 30.2%と他の年度がおおよそ 10%であることから高いと言える。また「6 千円未満」に関しても 2001 年度 56.6%、他の年度はおおよそ 75%であることから 2001 年度が低いと言える。「6 千円以上」に関しては、2005 年度が 16.2%で最も高く、他の年度はおおよそ 10%であった。

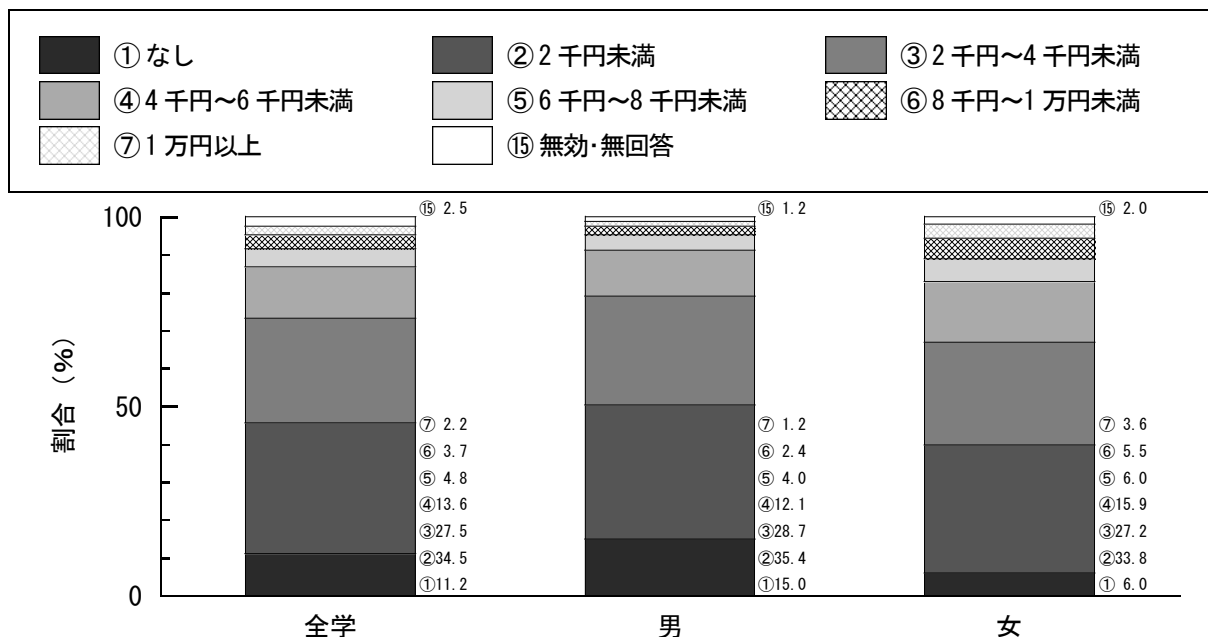


図 2-21-a Q10-fの集計結果（全学・男・女別）

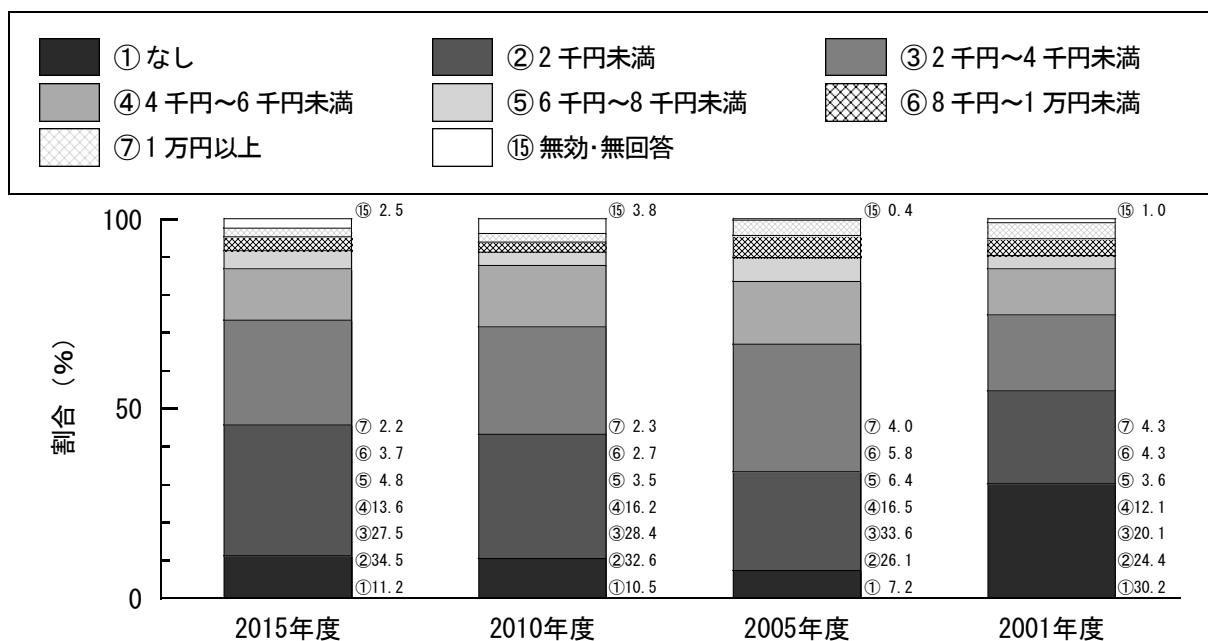


図 2-21-b Q10-fの集計結果（全学に関する調査年度別）

Q10-g <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>

娯楽・嗜好品費（趣味、レクリエーション、酒、たばこ、間食等）〔択一〕

娯楽・嗜好品費を計上した学生に関して最も多かったのが「5千円未満」で30.9%、次いで「5千円～1万円未満」29.5%、そして「1万円～1万5千円未満」17.1%、「1万5千円～2万円未満」6.8%となっている。「2万円未満」に関して、男子学生82.2%に対して女子学生88.5%であるから、女子学生のほうが高い。反対に「2万円以上」に関しては、男子学生12.0%に対して女子学生6.5%であるから、男子学生のほうが高い傾向にある。

「2万円未満」に関して、2001年度82.5%、2005年度88.3%、2010年度85.6%、2015年度84.3%となっており、2001年度から2005年度で増加、その後は減少または横ばいである。反対に「2万円以上」に関しては、2001年度14.7%に対して他の年度はおよそ1割であった。

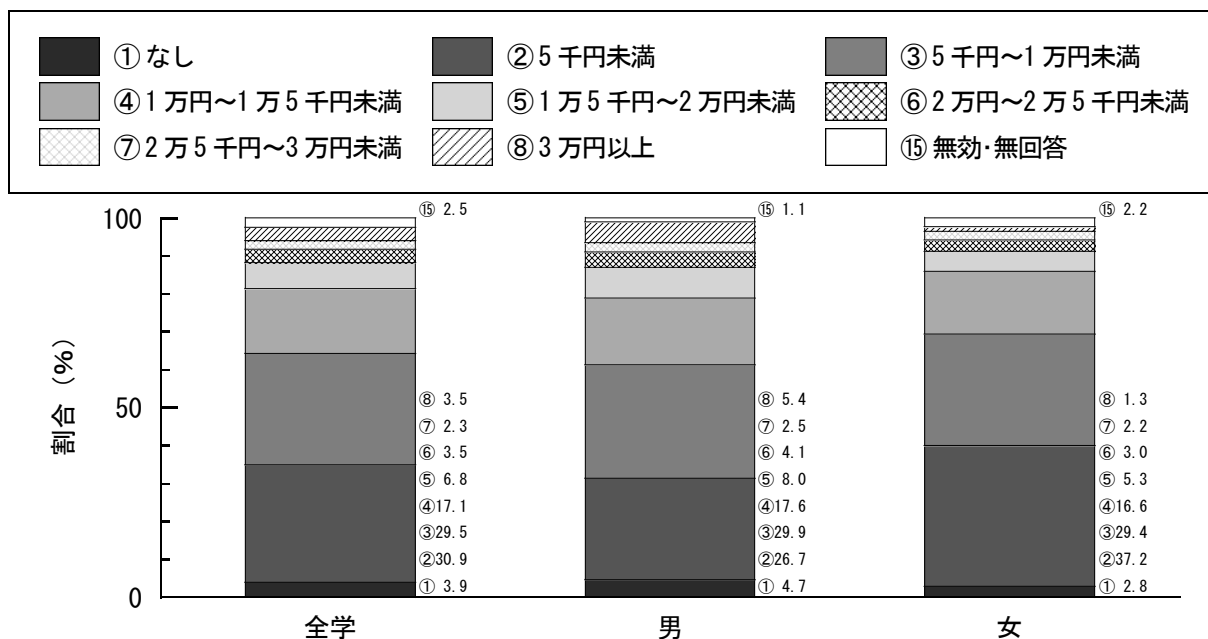


図2-22-a Q10-gの集計結果 (全学・男・女別)

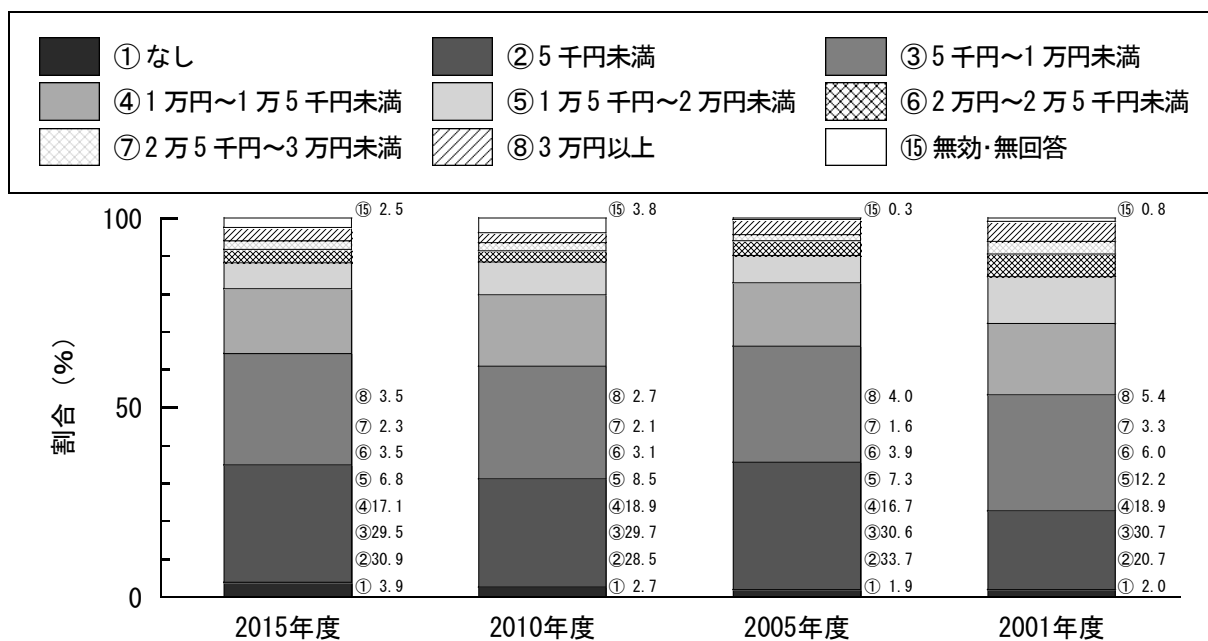


図2-22-b Q10-gの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q10-h <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>  
 その他の日常費（上記a～gに含まれない経費）〔択一〕

「なし」と回答した割合は27.4%であった。計上したなかで最も高いのは「5千円未満」の38.5%、次いで「5千円～1万円未満」19.0%、そして「1万円～1万5千円未満」6.9%となっている。「なし」および計上した回答の上位3つに関して、男女間に大きな相違はみられなかった。

「なし」に関して、2001年度9.6%、2005年度4.7%、2010年度24.9%、2015年度27.4%となっており、2001年度から2005年度で減少、2005年度から2010年度で増加傾向にある。「1万5千円未満」に関しては2001年度70.8%、2005年度78.0%、2010年度66.7%、2015年度64.4%となっており、2001年度から2005年度で増加、2005年度から2010年度で減少傾向にある。「1万5千円以上」に関しては2001年度18.4%、2005年度16.9%、2010年度3.1%、2015年度4.5%となっており、2005年度から2010年度で減少傾向にある。よって、2005年度に「1万5千円未満」の層が増加し、2010年度に「1万5千円未満」および「1万5千円以上」の層が共に減少した、とすることができる。

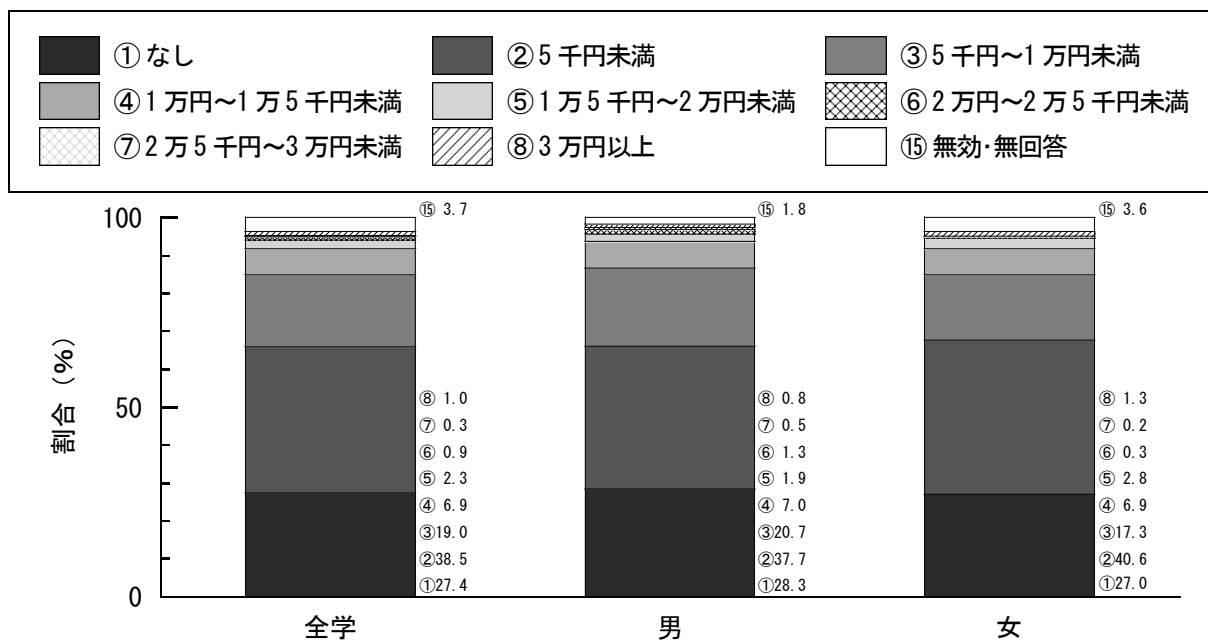


図 2-23-a Q10-h の集計結果 (全学・男・女別)

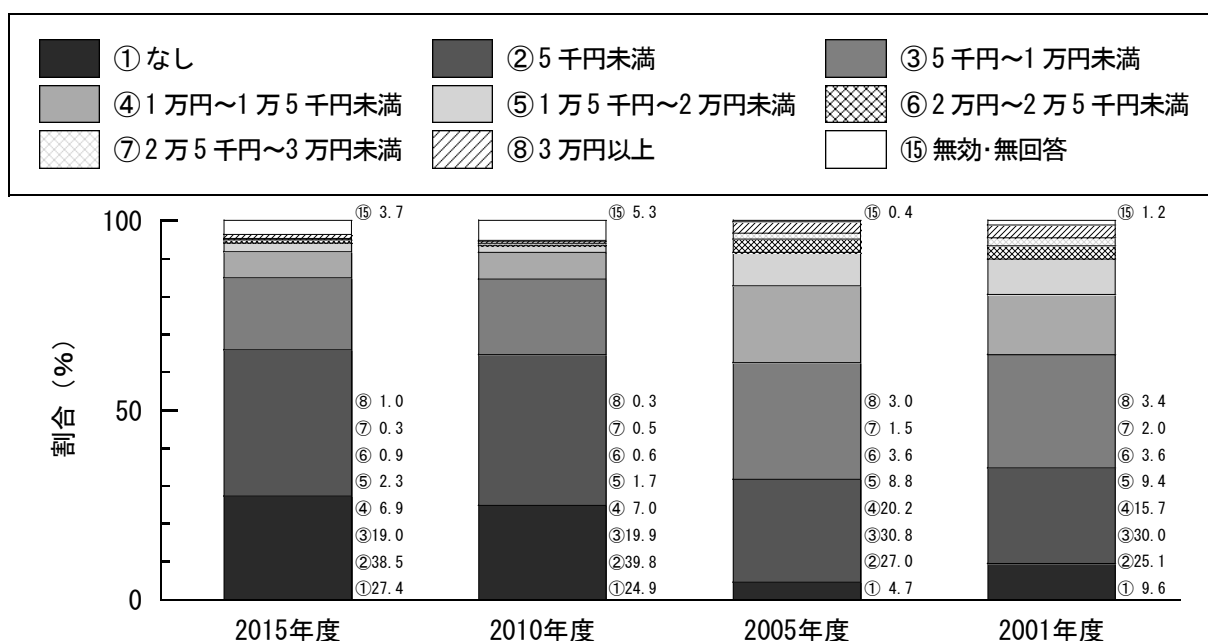


図 2-23-b Q10-h の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q10-i <1ヶ月の平均の支出額について（授業料等一時期にまとめて支払う費用は除く）>  
支出額合計（a～h）[択一]

最も高いのは「3万円～6万円未満」で33.9%、次いで「6万円～9万円未満」28.4%、そして「9万円～12万円未満」14.8%、「3万円未満」13.2%となっている。男女間における相違はほとんどみられない。

「3万円未満」に関しては、2001年度2.7%であるのに対して、他の年度はおよそ1割であるから、2001年度は低かったようである。一方で2001年度は「12万円以上」は他の年度より高くなっている。2001年度は他の年度に比べて支出額合計が多かったということになる。2005年度、2010年度、2015年度の「12万円未満」はおよそ9割で同様である。一方で2010年度における「3万円～6万円未満」は他の2つの年度より高く、「9万円～12万円未満」は低い傾向にある。よって2001年度から2005年度にかけて支出額合計は大きく下がり、さらに2010年度にはわずかに下がったが、2015年度にやや反発したと考えられる。

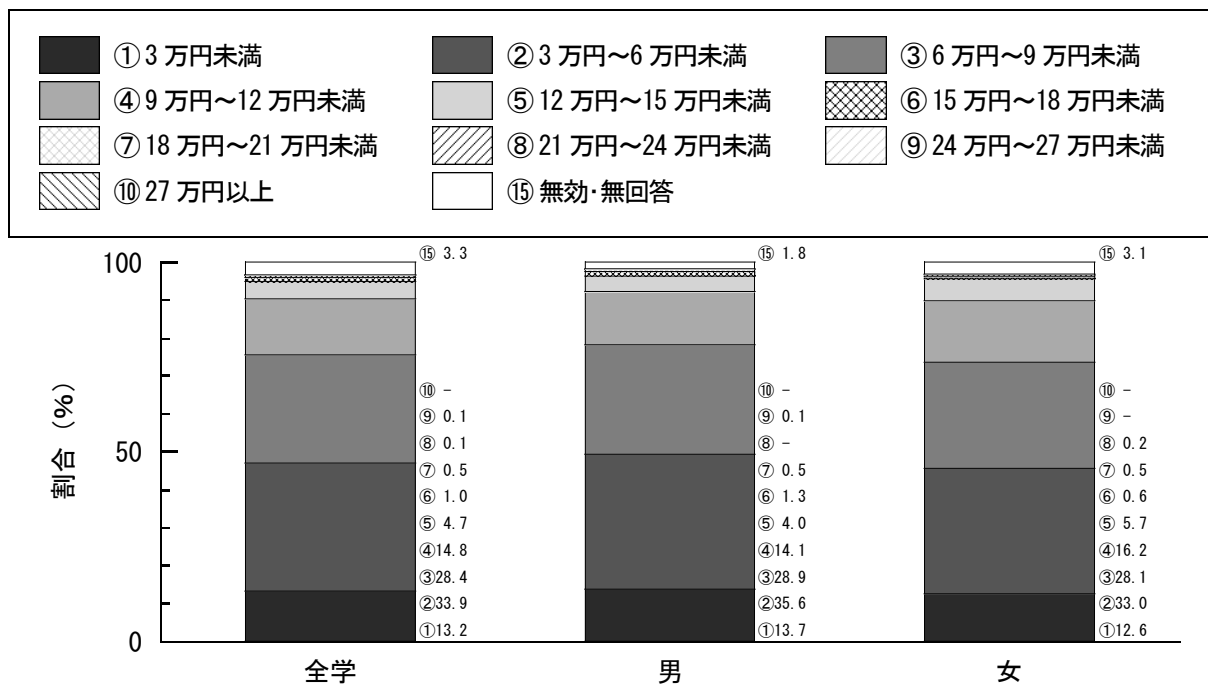


図2-24-a Q10-iの集計結果（全学・男・女別）

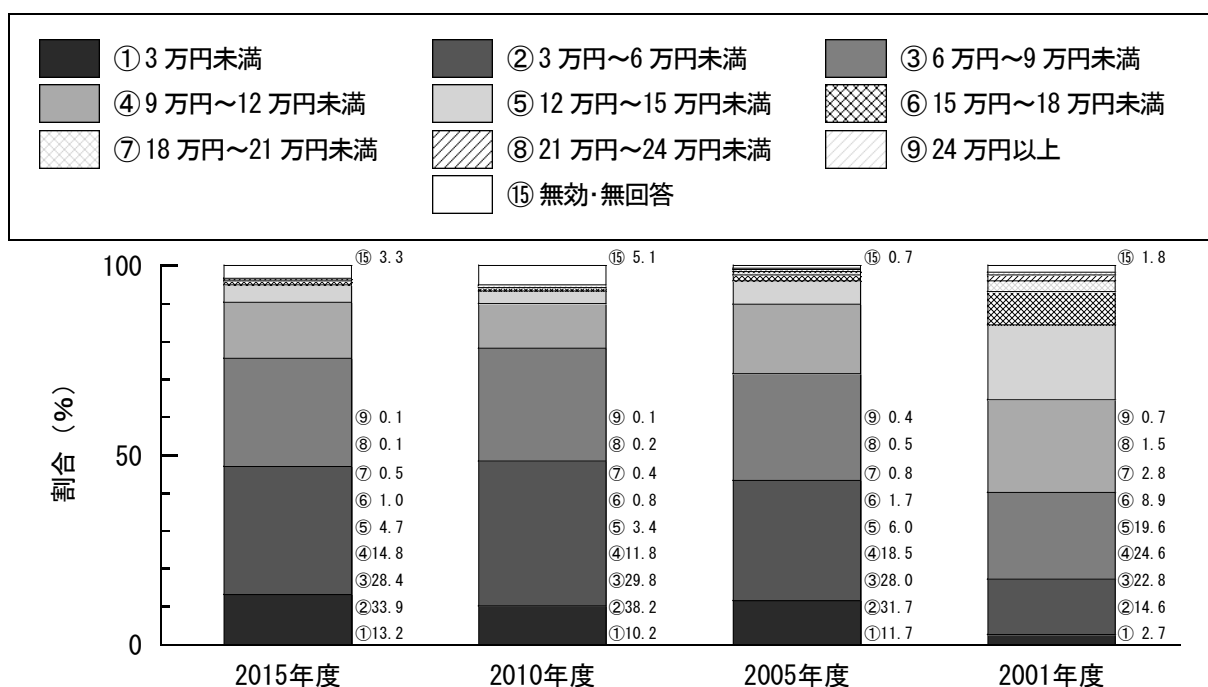


図2-24-b Q10-iの集計結果（全学に関する調査年度別）

### Q11 貯金はありますか [択一]

「20万円以上」と回答した学生が最も多く 25.7%であった。「なし」や「5万円未満」と回答した学生も少なくそれぞれ 20.1%、20.2%であった。男女間における相違はほとんどみられない。

「20万円以上」と回答した学生がおおよそ 25%であることや「なし～5万円未満」がおおよそ 4割であることなど、2010年度と 2015年度との間の相違はほとんどみられない。

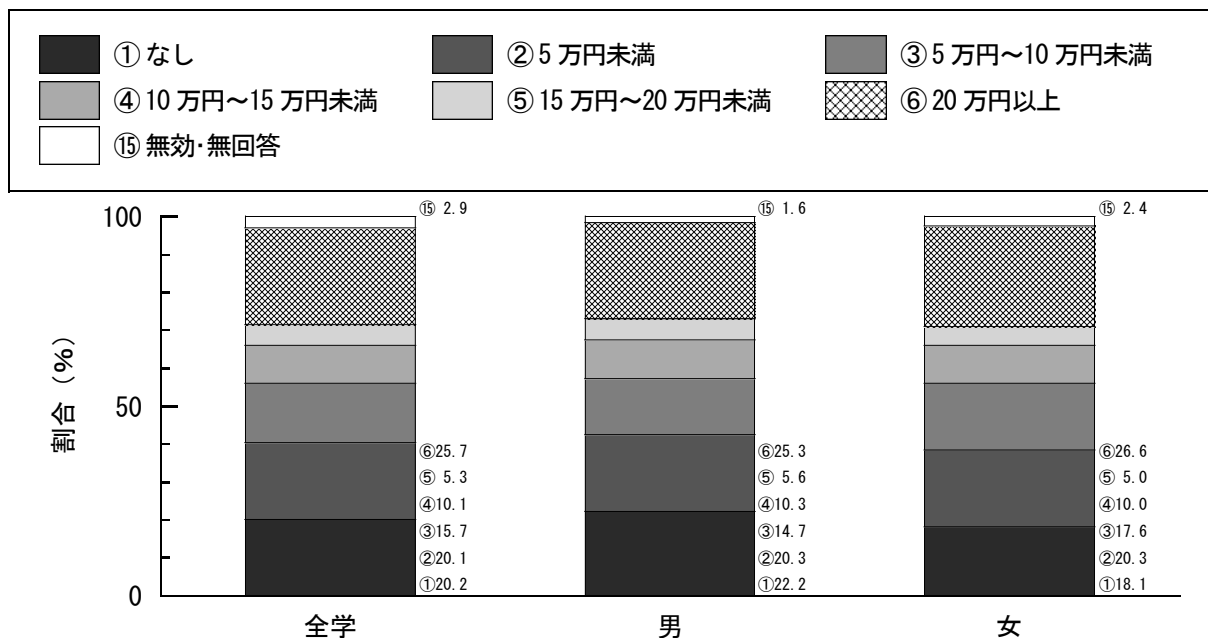


図 2-25-a Q11 の集計結果 (全学・男・女別)

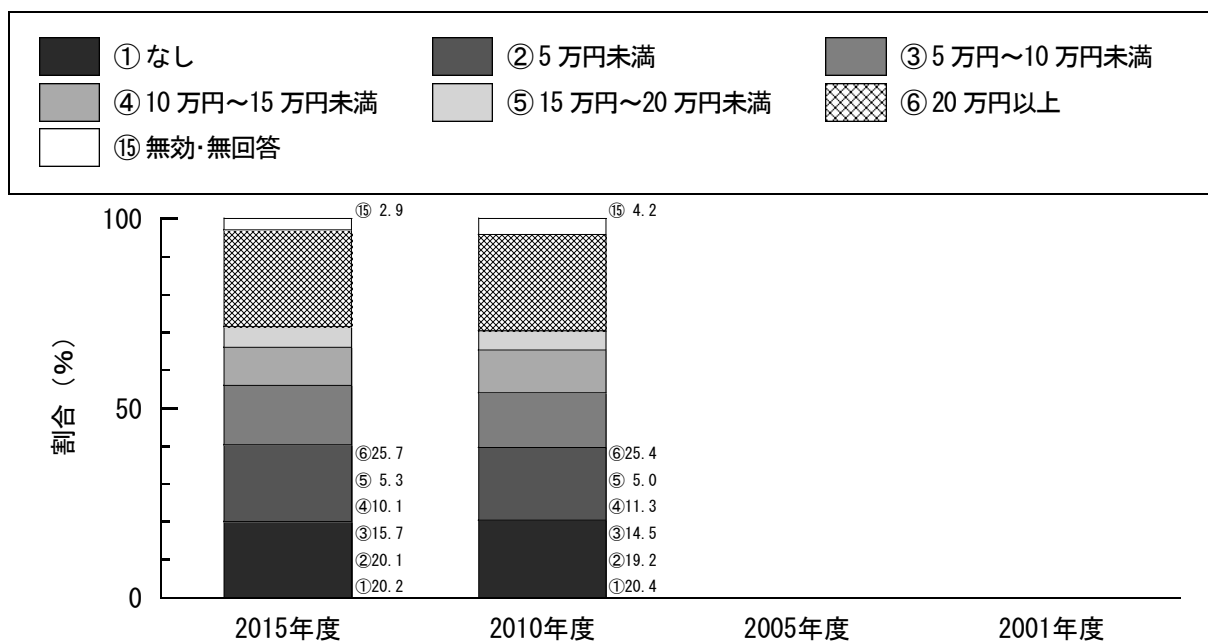


図 2-25-b Q11 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

### Q12 あなたは最近3ヶ月以内にアルバイトをしましたか [択一]

最近3ヶ月以内にアルバイトを「した」と回答した学生は60.6%と半数を上回っていた。男子学生、女子学生ともに「した」は半数を上回っているが、男子学生58.6%に対して女子学生65.2%であり、女子学生の値のほうが高い。

いずれの年度においても最近3ヶ月以内にアルバイトを「した」学生は半数を上回っている。ただし2010年度52.9%は、他の年度のおよそ6割より低い値であった。

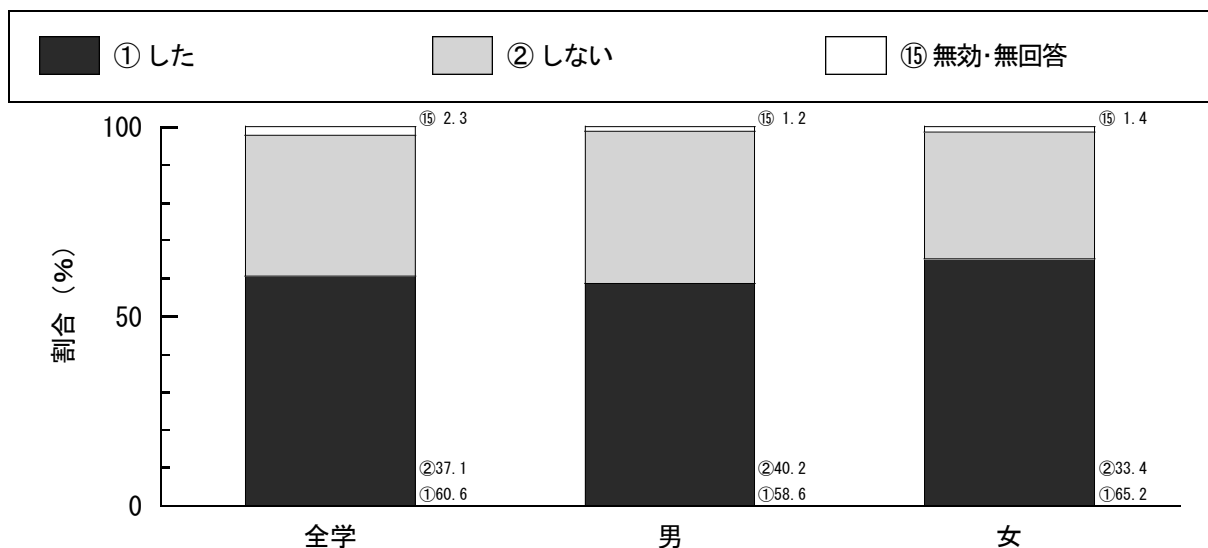


図2-26-a Q12の集計結果(全学・男・女別)

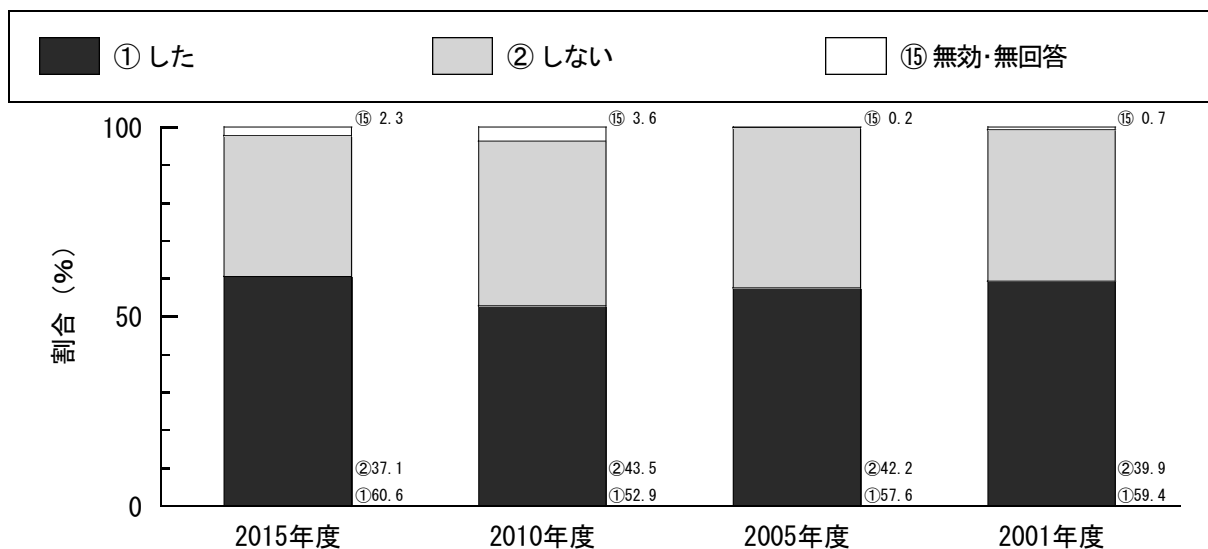


図2-26-b Q12の集計結果(全学に関する調査年度別)

Q12-SQ1 それはどんな仕事ですか

複数のアルバイトした方はもっとも時間を費やした仕事を教えてください [択一]

最も多かったのは「飲食店等の接客・調理補助」で37.1%、次いで「接客販売・レジ等の店員」で21.6%、そして「家庭教師・塾講師」13.5%、「ホテル・旅館の業務」9.5%となっている。男女間において順位に違いはない。しかし、「飲食店等の接客・調理補助」に関して、男子学生39.9%に対して女子学生33.7%であり、この業務は男子学生のほうが高いという傾向があった。また「ホテル・旅館の業務」に関して、男子学生6.7%に対して女子学生12.8%であり、この業務は女子学生のほうが高いという傾向がある。

2015年度上位4つの業務に関して、いずれの年度においても同様の順位で合計値もおおよそ8割で違いがない。しかし「飲食店等の接客・調理補助」に関して、2005年度31.1%に対して2015年度37.1%と増加傾向あり、「接客販売・レジ等の店員」に関しては、2005年度27.2%に対して2015年度21.6%と減少傾向にあった。

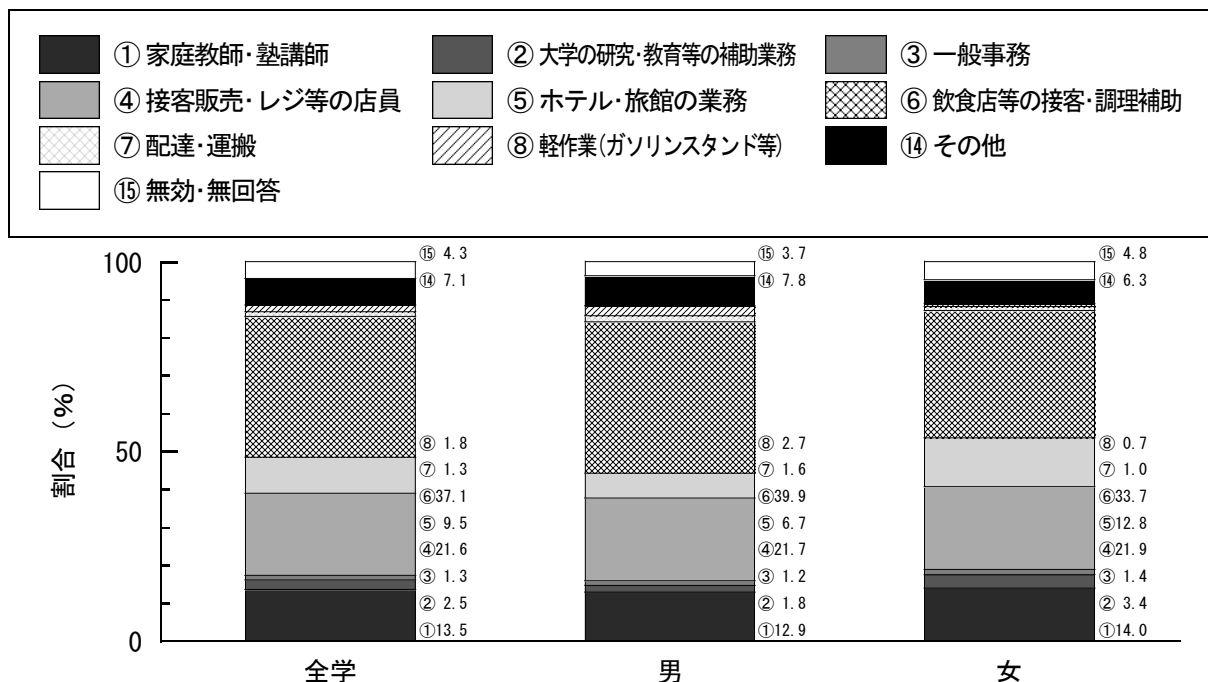


図2-27-a Q12-SQ1の集計結果 (全学・男・女別)

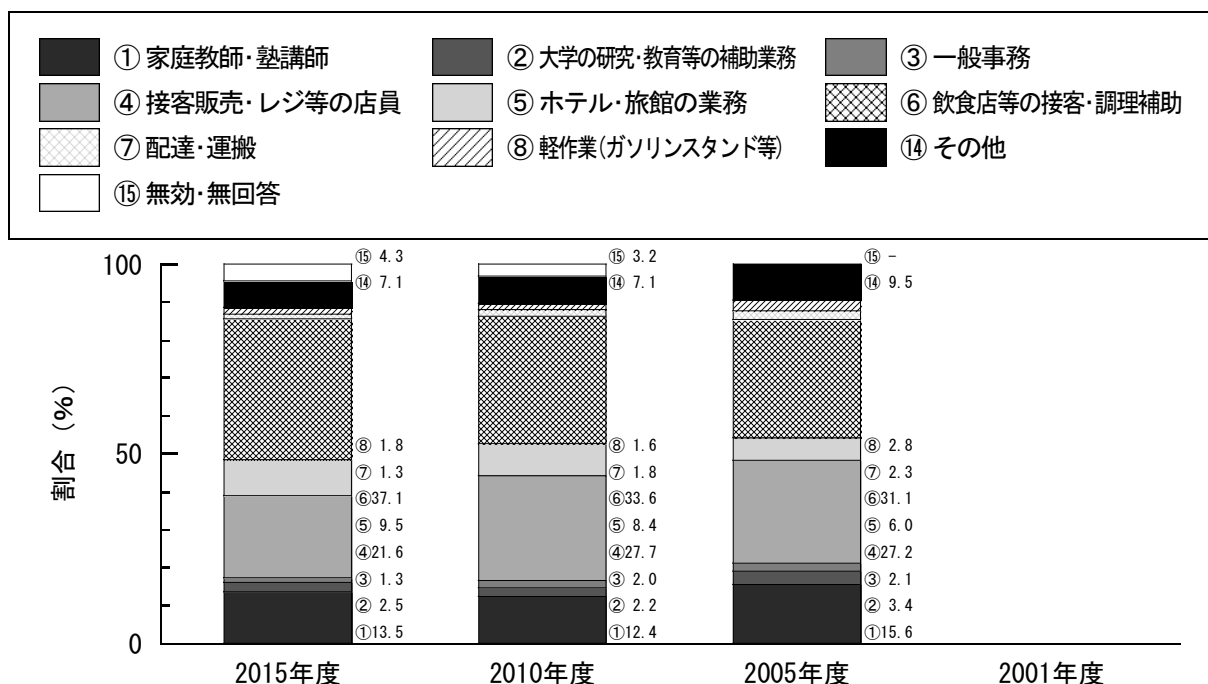


図2-27-b Q12-SQ1の集計結果 (全学に関する調査年度別)



Q12-SQ2 それは誰からの紹介（斡旋）ですか [複数選択可]

紹介を受けた先に関して「本学学生」と回答した学生が最も多く46.0%、次いで「情報誌（インターネット含む）」の35.2%という結果であった。アルバイトの見つけ方に関して「友達からの口コミ」や「各種メディア情報」が主な手段となっている。また「生協」や「学外者」も5%を上回っていた。男女間における相違はほとんどみられない。

2010年度の回答項目には「本学学生」や「情報誌（インターネット含む）」がなかったために比較することはできない。ただし、2010年度における「その他」は88.8%と非常に高く、これのほとんどは「本学学生」や「情報誌（インターネット含む）」を意味しているのではないだろうか。2010年度において「本学教職員」は7.9%であったが、2015年度には1.8%と下がっている。

表 2-5-a Q12-SQ2 の集計結果（全学・男・女別）

	全学	男	女
本学教職員	1.8	1.8	1.7
生協	5.7	4.5	7.0
本学学生	46.0	44.6	48.0
学外者	5.6	5.9	5.3
情報誌(インターネット含む)	35.2	36.6	33.5
家族・親戚	3.6	3.9	3.1
その他	5.8	5.3	6.5

表 2-5-b Q12-SQ2 の集計結果（全学に関する調査年度別）

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
本学教職員	1.8	7.9		
生協	5.7	3.2		
本学学生	46.0	-		
学外者	5.6	-		
情報誌(インターネット含む)	35.2	-		
家族・親戚	3.6	-		
その他	5.8	88.8		